

ルモノ、如シ嘆ス可キナリ次ニ輸出入ノ狀況及ヒ和式製紙業ノ將來ト洋式製紙業ニ關シ聊カ意見ヲ陳述シテ結論トナサントス

第一 輸出入ノ狀況

我邦紙類ノ産額ハ近年著シク増加シ機械漉紙凡ソ七百萬圓和式製紙無慮千五百萬圓ヲ超過シ之ヲ六七年以前ニ比スルニ實ニ倍數以上ニ達セリ是レ他ナシ國運ノ伸暢ニ伴ヒ消費ノ量逐次増進セルノ結果ニシテ獨リ内地ノ産額ノミニ止ラス輸入額モ亦タ次第ニ増加シテ今ヤ其ノ額凡ソ四百萬圓ノ多キニ達シ其ノ増率ハ既往六七年間ニ約二倍半トナレリ然レトモ輸出額ハ遺憾ナカラ之ト歩調ヲ一ニシテ進ムコト能ハス漸ク凡ソ五割ヲ加ヘテ百五六十萬圓ニ上ルニ過キササルナリ

惟フニ今ノ時ニ當リ輸出ノ振ハスシテ輸入ノ隆昌ナル所以ヲ討究シ以テ當業者ニ警告シ其ノ反省ヲ促サントスルハ蓋シ無用ノコトニアラサルヘキヲ信ス試ミニ輸入品ノ種類ヲ查數スルニ其ノ最モ主要ナルハ印刷料紙ニシテ無慮百四十三萬四千圓餘ノ巨額ニ及ヒ最近三年平均數以下同 煙草用紙及裝飾用紙五十七萬四千圓餘擬造半紙半切紙及鳥ノ子紙四十二萬四千圓餘マツチ用紙包紙四十九萬五千圓等之ニ次キ其ノ他筆記用紙製圖用紙唐紙擬造半紙板紙等ナリトス而シテ此等輸入紙中印刷料紙ノ多數ハ上等品ニシテ我洋式工場ニ於テ未タ輒ク産出シ能ハサルモノ多シ然レトモ後ニ記スル如ク工場ノ設備完全ニ近ク内地産スル所ノ原料亦タ少シトセス故ニ當事者ニシテ専心其ノ業ヲ研鑽シ學術ヲ講究シテ以テ精良ノ品種ヲ製出シ成

ル可ク其ノ規模ヲ擴張シテ協力之ニ當ランカ其ノ輸入ヲ防遏シ却テ我ヨリ輸出スルニ至ル蓋シ至難ニアラサルヘシ煙草用紙ノ如キモ亦タ然リ他ノ「マツチ用紙」包紙ノ如キハ既ニ輸入品ト同質ノモノヲ製シ得ルノミナラス此等ハ現今既ニ二十四萬圓ノ輸出アルヲ以テ稍其ノ輸入ヲ償ヒ得タリトナスヘシ獨リ寒心スヘキハ彼ノ歐洲大陸ヨリ輸入スル所ノ模造和紙ト稱スルモノニシテ近年著シク其ノ額ヲ増加シ邦人亦タ其ノ價ノ頗ル廉ニシテ且ツ普通ノ用途ニ好適スルヲ喜ビ爭テ之ヲ使用スルノ傾向アリ蓋シ此種ノモノハ彼ノ低廉ナル木纖維紙料ヲ主原料トシテ精巧ナル機械ト熟練ナル技術トニヨリテ巧ニ製出シ來ルモノニシテ爲メニ我カ和式製紙界ノ受クル所ノ影響ハ既ニ尠少ニアラス是レ上來屢陳セルカ如ク和紙製紙家ノ大ニ注意ヲ煩ハサント欲スル所ナリ

輸出紙類ハ典具貼紙、コッピ―紙、圖寫紙等三十八萬圓最近三年平均年額以下同斷ヲ始メトシ東洋紙凡ソ二十萬圓手漉印刷紙凡ソ十萬圓洋紙凡ソ二十四萬圓壁紙擬草紙凡ソ十三萬圓其ノ他ノ紙類凡ソ二十萬圓紙製品凡ソ四十九萬圓等ヨリ成ルモノニシテ此内「コッピ―紙」典具帖紙圖寫紙手漉印刷紙及紙、ナブキン」ノ如キハ本邦特有ノ製產品ニシテ孰レモ精巧佳良ナルモノヲ造リ得ルニ至リシコトハ今回ノ出品ニ就テ之ヲ知ルヲ得ヘシ故ニ後來製品ノ畫一ヲ守リ其ノ輸出ノ途ヲ誤ルコトナクハ恐ラクハ將來之カ需用ヲ減スルコトナカルヘシト雖モ此等ハ其ノ用途ノ比較的狭少ナルモノナルヲ以テ到底之レノミヲ以テ輸入品中ノ最多額ヲ占ムル印刷料紙ト拮抗スルコト能ハサルハ明ナリ壁紙擬草紙其ノ他ノ紙類モ亦タ漸次多少ノ輸出額ヲ

増加スルノ傾アルカ如シト雖モ性質上固ヨリ之ニヨリテ輸入額ヲ償ヒ得ルノ見込ナカルヘシ東洋紙及ヒ洋紙ハ今後益支那ニ輸出セラル、ノ好望アリ以上ノ如ク紙類ニ對スル輸出入ノ狀況ハ極メテ不利ニシテ頗ル悲シムヘキノ現象ナルカ如シ然レトモ將來我カ工業家ノ輸出地トシテ永ク嚮望スヘキハ支那ナルヲ以テ宜シク志望ヲ遠大ニシ能ク目前ノ小利ヲ捨テ、銳意經營其ノ途ヲ講セハ現時僅ニ和紙凡ソ四十萬圓洋紙凡ソ二十萬圓ノ輸出ハ年ヲ追フニ從ヒ其ノ文ヲ同フスルノ便宜上勢ヒ和紙ノ需用ヲ増シ隨テ其ノ額ヲ増加シ得ルコト蓋シ限リナカラヘシ且ツ同國ノ文化開明ニ向フニ從ヒ新聞其ノ他印刷ノ事業漸ク進ムヘキハ當然ニシテ之カ料紙タル機械漉紙亦タ頗ル需用セラルヘキハ疑ヲ容レズ

第二 和式製紙業ノ將來

和式製紙業ハ最早個々タル小規模ニ甘ンシ一日モ苟安スヘキノ時ニアラス若シ或ハ時勢ノ推移ヲ知ラス徒ラニ目前ノ小利害ニ拘束シテ荏苒歲月ヲ經過スルトキハ衷情竊カニ息ム可カラサルモノアルヲ以テ茲ニ再ヒ前説ヲ約言シテ當事者ノ省慮ヲ煩ハサント欲ス蓋シ原料ノ撰擇ヲ慎ミ製品用途ノ目的ヲ考ヘ其ノ煮熟ト藥品ノ用量トヲ研究シテ以テ紙ノ佳良ニシテ且ツ耐久ノ性ヲ損セサランコトヲ努メ成ル可ク完全ノ機器ヲ利用シテ以テ人工ヲ節シ協同團結シテ事ニ當リ以テ正確均等ナル多量ノ製品ヲ得ンコトハ最モ肝要ニシテ且ツ刻下ノ急務ナリトス故ニ彼ノ鳥取縣ニ於テ見ルカ如キ共同乾燥場ヲ設ケ「ビートル」ヲ据ヘ原料ヲ配付シ漉上ケタル濕葉ハ再ヒ集メテ人工的乾燥ヲ施セル等ハ組織上ノ一大進歩ト謂ハサルヘ

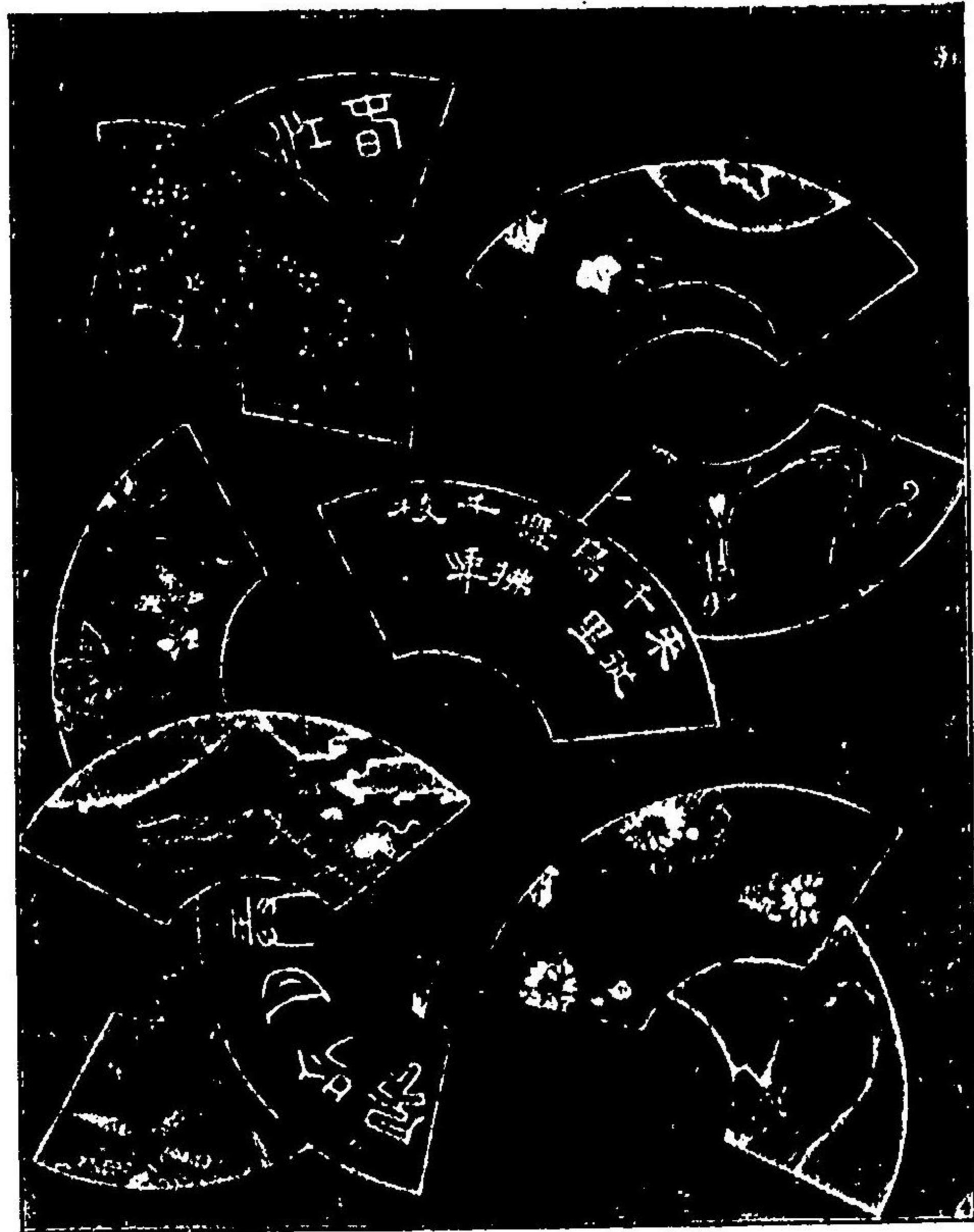
ラス望ムラクハ尙ホ進ンテ製造家聯合シテ水車又ハ小發動機ヲ据ヘ「ビートル」ヲ設ケ蒸汽ヲ用ヒテ熱蒸スヘキ原料蒸釜ヲ備ヘ「スクリーン」ヲ据付ケ彼ノ從來水直シ又ハ「カラ直シ」ト稱スル迂遠ノ精撰法ヲ廢シ一定セル良原質ヲ廉價ニ供給シ從前ノ製造家毎戸ハ原料購入ノ代リニ此等原質ノ配付ヲ受ケ以テ上等紙ヲ抄造スルニ至レハ紙質一定シテ多量ノ抄造高ヲ得ヘク製造費亦タ著シク低下スヘキナリ又規模ノ大ナル所ニ於テハ同時ニ抄紙機械ヲ設置シ漸次機械ニ據リテ普通紙ヲ抄造スルコトヲ努ムレハ熟練ヲ積ムニ從ヒ上等紙ハ手漉ニヨリ中以下ノモノハ機械ヲ用ヒ需要ト販路ニ適應シテ其ノ技ヲ恣ニスルコトヲ得ヘシ果シテ然ルトキハ舊來ノ和紙製造地ハ自ラ大勢ノ向フ所ニ後ル、ナク優ニ競争場裏ニ馳騁シテ恥ツルコトナカルヘシ是レ固ヨリ和式製紙家ノ執ルヘキ唯一ノ方法ト云フニアラスト雖モ亦タ時宜ニ適スルノ一策ナルヘキナリ其ノ他傳習所ヲ設ケ研究所ヲ開クカ如キハ既ニ其ノ實効ノ極メテ著シキコト今回ノ出品上歷々其ノ證左ニ乏シカラスシテ之カ普及ヲ望ムヤ切ナリ今ヤ印刷ノ術日ニ分岐シ鐵筆ノ用益増大セラレントス營業者ハ宜シク此等ニ適當スヘキ種ノ新式紙類ヲ製出スルコトニ努ムヘク其ノ他彼ノ上等筆記用紙名刺紙及種々ノ上等手漉洋紙ノ如キ能ク我製紙家ノ世襲的ニ養ヒ來レル妙技ヲ應用スルトキハ固ヨリ之ヲ模造シ得スト斷言ス可カラス徒ラニ舊慣ヲ墨守シテ窮屈ナル範圍ニ躊躇スヘキノ時ニアラサルナリ憾ムラクハ此等進取ノ策ヲ講スルニ方リテ營業者ノ多クハ學識ニ乏シク動モスレハ皮相ノ改良ヲナシ却テ強藥ニヨリ紙質ヲ傷害シ又ハ漂白粉ノ臭氣ヲ紙ニ留ムルモノアルカ如キ誠ニ

嘆スヘキコトニシテ科學ノ思想ヲ養成スルコトハ目下ノ最大急務タル可キナリ

第三 洋式製紙業ニ關スル所見

案スルニ明治ノ初年本邦新聞紙ノ發行其ノ他印刷術ノ起ルト共ニ洋式抄紙ノ業漸次開始セラレ其ノ后同二十年ノ頃ヨリ社會ノ進運ハ需要ノ増加ヲ促シ來リ爲メニ大工場續々設立セラレ今ヤ其ノ數殆ント二十ヶ所其ノ放下セル資金一千萬圓ニ近ク抄紙機械ノ數三十餘臺ニ上リ一ヶ年ノ抄造高無慮一億^一所^一均^一七^一餘^一平^一ヲ超過セリ其ノ間固ヨリ多少ノ盛衰アリシハ論ヲ俟タスト雖モ工場製造業トシテ其ノ規模ト其ノ產出額トノ大ナルコト紡績工場ヲ除キ他ニ其ノ比ヲ見ス蓋シ著シキ進步ナリト謂フ可シ然レトモ關テ之ヲ外國ニ比較スレハ尙ホ甚々微々タルヲ免レス即チ其ノ抄造高ニ於テハ歐米各國中僅ニ瑞西丁抹等ト比肩シ得ルノミニシテ彼ノ鞞爾タル和蘭白耳義等ニダモ及フコト能ハス加之其ノ製品ハ新聞用紙、マツチ用紙、包紙等多キヲ占メ上等印刷料紙ノ如キハ近年僅ニ東京板紙會社及ヒ神戸製紙所ニ於テ之ヲ製出スルニ過キス故ニ内地ニ於ケル洋紙ノ供給ハ尙ホ不足ニシテ需要ヲ充タスコト能ハサルハ既ニ普通洋紙ノ輸入高頗ル多キニ徴スルモ之ヲ證スルニ足レリ然ルニモ係ハラステ内地ノ製品ハ動モスレハ其ノ倉庫ニ停滯シテ空シク景氣ノ不振ヲ嘆スルモノ、如シ是レ品質ノ惡シキカ爲メカ將タ價格ノ彼レヨリ廉ナラサルカ爲メカ抑モ亦技術ノ彼レニ如カサルニ由ルカ其ノ原因固ヨリ一ニシ足ラサルヘキモ由來製紙所ノ經營ハ比較的困難ヲ感スルモノ多ク加フルニ此等工場ノ多數ハ或ハ不時ノ災厄ニ罹リ或ハ意外ノ蹉跌ヲ蒙ムリ舊場未ダ

品出場紙製田太縣岡靜



愈ヘスシテ内部ノ整理完カラサルモノアリ然レトモ事技術ニ關セサルヲ以テ茲ニ詳説スルノ必要ナシ

本邦洋紙ノ原料トシテハ木綿、楮、藁、木材ノ外三楮皮ノ如キモノアリ麻屑、古網ノ如キモ亦タ得ラレサルニアラス而シテ人或ハ亞麻、纒、ニ欠乏セルカ爲メ上等洋紙ヲ製出スルニ適セスト説クモノアルモ上等洋紙豈ニ獨リ必スシモ亞麻、纖維ニノミ限レリト云ハンヤ木綿、纖維ノ如キ三楮紙料ノ如キ亦タ能ク最良質ノ紙類ヲ製造シ得ヘキナリ次ニ木質紙料ハ壠木、原質ト亞硫酸木纖維トノ兩者ニシテ共ニ其ノ製造ハ大ニ進歩セリ他ノ曹達木纖維ノ如キハ製造ニ宏大ナル曹達還製裝置ヲ要シ又硫化曹達木纖維ノ如キハ其ノ製法外國ニ於テモ尙ホ試験的タルヲ以テ本邦ニ於テハ未タ採用スルモノナシ其ノ他歐米ニテハ紙料ノ製造多ク專業ニ屬シ木質紙料ノ販賣極メテ隆盛ニシテ本邦ニモ多量ニ輸入セラル、ヲ見ル次ニ藁纖維ノ製造ハ從來本邦ニ於テ極メテ盛ニシテ良品尠少ナラスト雖モ之ヲ獨國ヨリ輸入スル藁、藁ノモトニ比スレハ品質稍劣リ又硫酸分ヲ含ムコト多量ニシテ藥品ヲ要スルコト少ナカラサルト曹達還製ヲ行ハサルトニヨリ代價モ亦タ不廉ナリ其ノ他麻、纒、古網等ハ之ヲ適當ニ處スレハ極メテ良質ノ麻纖維ヲ得ヘシ

内地ノ原料ニ乏シカラサル實ニ斯ノ如シ而シテ工場ノ設計機械ノ設備等ヲ見ルニ是レ亦タ多クハ巨額ノ資ヲ投シテ或ハ米式ニ法リ或ハ英式ニ遵ヒ必要ナル裝置ハ一モ具備セサルナク其ノ多數ハ殆ント完全ナリト謂フヲ得ヘシ殊ニ抄紙機械ノ如キハ籠テテ新式ニシテ且ツ

精巧ナルモノヲ購入セシヲ以テ之ヲ歐米第一流ノ工場ニ比スルニ敢テ遜色ナク其ノ様式ニ至テハ長網最モ多ク丸網モ亦タナキニアラス其ノ他「ハーバー」式アリ單乾燥圓筒式アリ此等ハ概テ米國製ノモノ多ク英國製之ニ次キ又獨國及ヒ和製ノモノアリ而シテ是等工場ニ從事スル技術者ハ大抵相當ノ經歷ヲ有シ年來ノ經驗ニヨリテ其ノ技術ニ習熟セルモノ多ク外國ニ於テ練習セルモノ亦タ少シトセス又外國技術ヲ聘僱セルモノアリ右ノ如ク本邦ニ於テハ其ノ原料頗ル富豊ニシテ製造上ノ設備ハ殆ント完成シ技術者亦タ其ノ人ニ乏シカラサルカ如シ而シテ猶ホ未タ上等紙ヲ製出スルコト能ハサルノミナラス其ノ事業ノ萎靡振ハサル所以ノモノハ何ソヤ他ナシ之ヲ技術上ヨリ觀察スルニ其ノ多クハ製造ニ關シ付テ一定ノ方針ヲ確立セサルカ爲メ製品ノ一定セサルニ起因スルモノ、如シ請フ少シク其ノ所以ヲ説カン夫レ製紙ノ術タルヤ比較的モ多クノ煉磨ト熟達トヲ要スルモノニシテ其ノ装置及ヒ機械ハ如何ニ完備ナルモ指揮者如何ニ其ノ人ヲ得ルモ職工ニシテ其ノ技ニ熟練セスハ決シテ正確ナル良品ヲ製シ得ヘカラサルナリ而シテ其ノ習練ノ星霜ハ比較的頗ル長キヲ要シ彼ノ朝ニ薄紙ヲ漉キ夕ニ厚紙ヲ製スルカ如キハ其ノ技ニ熟スルノ途ニアラス現今製紙界ニ於テ最モ欠乏ヲ感スルハ一ニ熟練ナル職工ニアリ然レトモ是レ畢竟現時工場ノ多クハ専門ニ其ノ業ヲ營マサルカ爲メニシテ誠ニ免レサルノコトナリトス既ニ紙業ノ盛大ニシテ且ツ進歩セル米國ノ如キハ各工場ノ製品大抵一二種ニ限ラレ其ノ業務全ク専門ナリトス故ニ技術ハ日ヲ追ヒ熟スルノミナラス工場内部ノ整理原料製品ノ買賣等甚タ單

純ニシテ多岐ニ分ル、ノ弊ナク從テ機械及ヒ設備等ニ繁閑ノ不平均ヲ生スルコトナシ之ヲ約言スレハ何レノ工場ニ於テモ製造經理共ニ經濟的ニ行ハル、ヲ以テ當業者間ノ競争ハ單ニ技術ノ優劣ニ存シ其ノ結果ハ製品ノ代價愈廉ニシテ其ノ品質益精シカラサルヲ得サルニ至ルナリ然ルニ本邦製紙界ハ創業日尙ホ淺ク事業ノ基礎未タ確立セサルニ賴ルヘシト雖モ各會社ノ多クハ上記ノ如ク其ノ製造ニ就テ一定ノ主義ナク從テ世人ノ信用ヲ博セル特質ノ紙類アルナシ唯一時ノ市場ノ狀況ニヨリ其ノ製品ヲ左右セラル、ヤノ感アリ往年某工場ニ於テ連史ナルモノヲ試製シ之ヲ支那ニ輸送シテ大ニ其ノ好評ヲ得ルヤ他ノ工場モ直チニ從來ノ顧客ヲ捨テ皆ナ争フテ之カ製造ニ馳セ後チ其ノ需用供給ノ平衡ヲ失シ利益舉ラサルニ至レルヲ見ルヤ忽チ之ヲ棄テ、顧ミルモノ少ナキカ如キノ實例アリ斯ル無主義ノ方法ニヨリ其ノ業ヲ專ラニセサルカ爲メ外ハ需用者ノ信用ヲ欠キ開斷ナク執業スルコト能ハス内ハ繁閑常ナク製品一定セサルカ爲メ職工ノ技術ヲ養成シ良品ヲ製出スルコト能ハサルニ至ルナリ

惟フニ洋式製紙界ノ前途ハ極メテ有望ナリ故ニ當業者ニシテ製造ノ基礎ヲ確立シ同一販路ニ相争フノ弊ヲ避ケ供給ヲ分配スルノ策ヲ講シ漸次自己ノ製品ヲ一定シ専心技術ノ信用ヲ重シシ學理ヲ應用シテ以テ力ヲ製造ニ盡クストキハ需用供給其ノ宜ヲ得顧客ハ倚テ以テ安シシ職工亦タ技ヲ專ラニスルコトヲ得テ技藝ノ進ミ品質ノ佳良ナル期シテ待ツヘク然ル後チ能ク歐米斯業界ト拮抗シテ雄ヲ東洋ニ稱スルニ至ルヘキ歟

合	臺	鹿	宮	熊	佐	大	福	高	愛	香	德	和	山	廣	岡	島	島	富	石	福	秋
計	灣	島	崎	本	賀	分	岡	知	媛	川	島	山	口	島	山	根	取	山	川	井	田
一〇五										○											
三六																					
八一																					
三三四																					
六九																					
一五二																					
三五																					
八〇二																					
六八九二	一	二	五	〇	一	三	四	六	七	八	八	三	七	九	八	四	八	七	八	二	八

五四

第二十七類 鞣皮鞣革類

其一 鞣皮鞣革

報告員

守屋物四郎

高松 豊吉

工學博士 吉田彦六郎

理學博士 澤邊春水

審査官

一川 一

金子 篤壽

丹羽 圭介

此種ニ屬スル今回ノ出品ハ茶象皮、多脂牛革、堅牛革、茶利革、ヌメ革、軍靴用甲革、銀剝革、油革、クロム革、牛皮製鞣馬皮製鞣模造ロシヤ革、羊鹿無地染革、裝飾革、姫路革等ニシテ其ノ出品ノ最モ多キハ東京及大阪ノ二府ニシテ兵庫縣之ニ亞キ其ノ他一府七縣ヲ合セテ出品人五十三名出品點數三百七十四點之ヲ前回ノ出品人三十一名出品點數二百一十一點ニ比スレハ人員ニ於テ十二名出品點數ニ於テ百六十三點ノ増加ナリトス即チ左表ノ如シ

府縣名	出品點數	出品人員	受賞者數					合計	出品人員ニ對スル受賞者ノ比例
			名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀		
東京	三二	一五						二	〇〇〇〇
京都	四〇	九						一	〇〇〇〇
大阪	二〇	一						一	〇〇〇〇
兵庫	二							四	二八五七
奈良	五							一	〇〇〇〇
岐阜	九							一	〇〇〇〇
靜岡	五							一	〇〇〇〇
島根	五							一	〇〇〇〇
和歌山	六							一	〇〇〇〇
福岡	一							一	〇〇〇〇
合計	一二九	三七	一	一	二	四	一	一九	五一三五

前回ハ會々軍國多事ノ時ニ際シタルヲ以テ一般皮革製業者ハ軍需ノ供給ニ忙シク出品ノ餘暇ナカリシヨリ出品比較的尠カリシ事情アリ然レトモ今回ハ管ニ人員及點數ニ於テ著シク増加ヲ呈シタルノミナラス品質佳良ノモノ亦甚タ多クシテ製革術進步ノ實蹟瞭然トシテ大ニ觀ルヘキモノアリ

近年本邦ニ於ケル製革業ハ頗ル長足ノ進步ヲ爲シ俗ニ茶利革ト稱スル薄革類ハ勿論從前ハ製作難業ト認定セラレタル象皮即チ厚革類ニ至ルマテ外國製品ニ對比シテ殆ント遜色ナキノ良品ヲ製出シ就中軍靴、馬具、鞍馬具、彈藥盒背囊等ノ如キ軍需材料ハ一切本邦ノ製品ヲ以テ之ヲ充用スルニ至レリ而シテ是等軍需材料ノ供給ヲ以テ主ナル目的トスル所ノ製革業者ニ於テハ成ルヘク手工ヲ減少シ機械力ニヨル設備ヲナシ以テ品質殆ント等一ノ良品ヲ廉價ヲ以テ迅速ニ多量ニ供給シ得ルノ程度ニ達シタルヲ見ルハ斯業上非常ノ進步ト云ハサルヘカラス今回出品ノ諸革中特ニ技術進步ノ實ヲ認ムルハ多脂牛革、堅牛革、軍靴用甲革等ナリ是レ畢竟一般需要ノ増加就中軍備擴張ニヨリ其ノ發達ヲ促シ以テ茲ニ至リタルモノニシテ偶然ニアラサルヲ知ルヘシ而シテ今回此等ノ種類ヲ出品シタルハ東京ノ東京製皮合資會社、帝國製皮合資會社、日本製革株式會社、大阪ノ大倉組皮革製造所、津田政次郎等ヲ以テ其ノ主ナルモノトス

茶利革類就中俗ニフランス革ト稱スル油革ハ出品セシ各府縣ニ於テハ多少之レナキハナク品質良好ナルモノ亦少ナカラス此ノ一事ヲ以テ考フルモ一般皮革製造者ハ世間ノ需用最モ多キ皮革類ノ製作ニ對シ専ラ注意ヲ加ヘ改良進步ノ効ヲ奏シツ、アルヲ知ルニ足ルヘシ銀刺革ハ出品僅ニ三點ナレトモ其ノ製作宜シキヲ得テ比較的高價ナル油革ノ代用品トシテ適良ト認ムルモノアリ

「クロム革、紫革、黑塗輝革ハ各一點大阪府ヨリ出品セリ其ノ品質未タ舶來品ニ及ハサル所アリト雖モ將來此種ノ製革ハ頗ル有望ナルヲ以テ之カ製造ニ務メンコトハ最モ勸告セントスル

所ナレハ今回少数ナリト雖モ此出品ヲ見ルニ至リタルハ甚タ喜フヘキ現象ナリトス當業者タルモノ一層奮發シテ此種製革ノ方法ニ改良ヲ加ヘ益々研究シテ之ヲ完成センコトヲ勉メサルヘカラス

模造ロシヤ革ハ東京京都大阪静岡等ヨリ之ヲ出品セリ其ノ原料染色共ニ稍々佳良ナリト認ムルモノ尠カラスト雖モ之ヲ概言スレハ此種ノ製革ニシテ多少褪色ノ憂ナキモノハ殆ント皆無ニシテ外國製品ト比較スルトキハ尙ホ幼稚ナリト評セサルヲ得サルハ洵ニ遺憾トスル所ナリ然レトモ其ノ製作ニ於テハ製革者ハ熱心ニ改良ヲ施シツ、アルヲ認ムルヲ以テ將來一層奮發シテ屈セス益々研究ヲ重ネ之カ改良ヲ圖ルニ於テハ必ス遠カラスシテ缺點ナキ良品ヲ製出スルニ至ルヘキヤ決シテ疑ヲ容レサルナリ

馬皮製鞣及牛皮製鞣ハ古來兵庫縣下著名ノ物産ナリシカ今回モ出品人十三名ノ多キヲ見ル多年ノ經驗ニヨリ技術熟達シ産額亦増加シ大ニ賞スヘキモノアリト雖モ其ノ製鞣ノ裏面ニ多ク刀疵アルヲ見ルハ裏梳キ作業ニ於テ未タ注意ノ足ラサルヲ證スルモノナリ是レ事小ナナルニ似タルカ如シト思フモノアルヘキモ革ノ耐久力ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ將來一層注意ヲ加ヘ之カ改良ヲ圖ラサルヘカラス

其二 染革及其他加工皮革

報告員

守屋物四郎

守屋物四郎

工學博士 高松 豊吉

理學博士 吉田 彦六郎

審査官 澤邊 春水

一川 一

金子 篤壽

丹羽 圭介

裝飾革ハ各種模様染革更紗革繪革菖蒲革絞リ革蒔繪革刺繡革印傳革等ニシテ其ノ出品點數及ヒ出品人員等ハ左表ノ如シ

府縣名	出品點數	出品人員	受賞者				出品人員ニ對スル受賞者ノ比例
			二等賞	三等賞	褒状	合計	
東京	二二二	七			二	七	一〇〇〇〇
大阪	一一七	三			一	一	三三三三
兵庫	一一二	四			二	二	五〇〇〇
和歌山	五	一					
合計	二四五	一五	四	二	四	一〇	六六六六

右ニ依レハ其ノ出品ハ東京府最多ヲ占メリ而シテ其ノ出品ハ外觀上極メテ美麗ニ其ノ陳列ノ方法モ亦宜シキヲ得テ大ニ觀覽者ノ注意ヲ惹キ技術意匠共ニ殆ント間然スル所ナキカ如シ之ヲ前回ノ出品ニ比スレハ進歩ノ實蹟ヲ認ムト雖モ仔細ニ之ヲ點檢スルニ於テハ數種ヲ除クノ外概シテ染色ノ法未タ完カラスシテ褪色ノ憂ナキモノ殆ント皆無ナリ是皮革染色ニ好適適合スル色素ヲ精撰セサルニヨルモノナレハ當業者タルモノ一番奮勵シテ皮革染色ニ好適セル堅牢ナル色素ヲ撰擇シ學理ヲ應用シテ實驗ヲ重子舊來慣用ノ方法ヲ根底ヨリ改良ヲ施サ、ルヘカラス且ツ此種ノ皮革類ハ近年海外へ輸出ノ途稍開ケントスルノ際ナレハ將來頗ル有望ノ事業ナリト認ムルヲ以テ意匠ハ勿論染色法仕上法等ニ深ク注意ヲ加ヘ褪色ノ憂ナキ堅牢ナルモノヲ多量ニ低廉ニ製出スルコトヲ勉ムヘキコト實ニ目下ノ急要ナルモノトス左ニ皮革類ノ輸出入表ヲ掲ケテ參照ニ供ス

皮革類輸出入額

年次	價額	年次	價額
明治二十八年	三三二、五四三	明治三十二年	五二二、一五五
同二十九年	三五五、八二一	同三十三年	一、二三三、六六〇
同三十年	六二五、四三四	同三十四年	六九〇、七二九
同三十一年	三八七、八六九		

姫路製白色革ハ英國、獨逸ヲ主ナル仕向地トナス近時米國ニテモ之カ需用アリ其ノ用途ハ小

供靴洋袴釣書籍表紙ヘルト等ニ用ユルニアリ

牛皮及水牛皮輸入額

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治二十八年	三、九一五、二一四	六九五、九八五	明治三十二年	三、一〇四、四五八	七一九、九三〇
同二十九年	二、九七六、四六八	五三九、六七五	同三十三年	二、六九六、六六二	六五六、六四三
同三十年	一、九七四、五一〇	三四六、三九四	同三十四年	三、三四四、〇六二	七八六、六〇九
同三十一年	二、九二二、九三六	五八七、九四九			

本品ノ輸入ハ韓國最モ多ク支那之ニ亞ク和蘭英領印度又之ニ亞ク

熟皮輸入額

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治二十八年	三、二二〇、四八八	一、五九〇、五九六	明治三十二年	一、六〇三、二九一	一、六〇七、〇九〇
同二十九年	二、七七八、七六二	一、七一八、四五〇	同三十三年	二、六六一、八二六	二、〇八五、九八一
同三十年	二、一三九、四六五	一、三八五、〇四〇	同三十四年	二、〇五四、七七九	一、三四七、四八七
同三十一年	二、七二三、八四六	一、七六七、〇九〇			

厚革ハ靴底及調革ニ使用ス他ノ熟皮類中佛蘭西革ハ靴ノ甲皮ニ用ヒ露西亞皮ハ靴袋物等ニ使用シ山羊皮類ハ袋物靴椅子ノ唐張下駄ノ鼻緒等其ノ用途極メテ廣シ依テ年々其ノ輸入モ

其三 擬革

報告員 一川 一

守屋物四郎

工學博士 高松 豊吉

理學博士 吉田彦六郎

審査官 澤邊 春水

一川 一

金子 篤壽

丹羽 圭介

此種ニ屬スル出品ハ東京三重岐阜兵庫及奈良ノ一府四縣ニシテ總數二百二十二點人員十三名ナリ即チ左表ノ如シ

府縣名	出品點數	出品人員	受賞者數				出品人員ニ對スル受賞者ノ比例
			二等賞	三等賞	褒	狀	
東 京	三五	一				一	一〇〇〇〇
兵 庫	三七	一					
奈 良	一七	一				二	四二八五
岐 阜	一六	一					
合 計	二二二	二二	一			三	三〇七六

東 京	兵 庫	奈 良	岐 阜	合 計
一	一	一	一	二二二
一	一	一	一	二二
一	一	一	一	一
一	一	一	一	三
一	一	一	一	四
一〇〇〇〇				三〇七六

今出品ノ一般ヲ觀察ルスニ之ヲ前回ニ比スレハ多少進歩ノ實蹟ヲ認ムルモノアリ特ニ三重縣ノ如キハ古來縣下著名ノ一物産タリシモ其ノ用途ハ尙ホ煙草入製作用ニ過キサリシヲ以テ販路ノ如キモ自ラ一部ノ需用ニ限ラレタル有様ナリシニ近時下駄爪掛其ノ他種々携帶品ノ製作用トシテ應用セラレ大ニ其ノ販路ヲ擴ムルニ至リタルハ能ク斯業ノ發達ヲ圖リタルモノニシテ殊ニ羊糞紙ノ如キハ紙質色澤等頗ル佳良ナリト稱スルニ餘リアルハシ然レトモ擬革紙全般上ヨリ之ヲ見レハ第一着色法完全ナラサルノミナラス色ノ撰ミ方宜シカラスシテ中ニハアニン色ヲ用ユルモノアルヲ認メタリアニン色ノ如キハ元來耐久性ヲ有セサルヲ以テ成ルヘク其ノ質堅牢ニシテ容易ニ變色或ハ褪色セサル色料ヲ撰ハサル可カラス而シテ又其ノ色ノ餘リニ冴へ過キタルモノアリ是等ハ凡テ今少シク趣味アリ且ツ高尚ナルモノヲ撰ヒ配色ニ注意セサル可カラス又油ト繪具トノ調和適當ナラス爲メニ油ハ繪具ヨリ分離スルノ傾キアルヲ以テ塗料ノ附着力ハ弱ク折目又ハ僅ノ接觸ニヨリテ容易ニ剝離スルノ

計	石	富	島	島	岡	廣	山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	熊	宮	鹿	北	沖	臺灣	
五																						
一																						
五																						
三																						
九																						
二																						
五																						
三																						
三																						
一																						
一八																						
一																						
一																						
九																						
一〇																						
一〇																						
五																						
六																						
三五																						
二九五																						
九																						
三三																						
三三																						
五六																						
九																						

明治三十七年四月廿七日印刷
 明治三十七年五月四日發行

第五回内國勸業博覽會事務局編纂

定價全一部金貳拾五圓

本卷定價金五十五錢

發行者 東京市日本橋區兜町二番地 長谷川 正直

印刷者 東京市日本橋區兜町二番地 齋 藤 章 達

印刷所 東京市日本橋區兜町二番地 東京印刷株式會社

317
21

317

21

第五回内國
勸業博覽會

審查報告

第五部 卷之六

第五回内國勸業博覽會審査報告 第五部 卷之六

第二十八類 漆器

明治
87 5 4
内交

目次
第二十八類 漆器

目次

第二十八類 漆器



報告員

金子篤壽

金子篤壽

守屋物四郎

吉田彦六郎

三山喜三郎

谷口樅之助

金子錦二

審査官

理學博士

今回塗物類ヲ出品シタルハ東京府外二府三十六縣ニシテ漆器類多數ヲ占メ其ノ様地ハ少數ニ止マリ漆ヲ用ヒサル塗物及金物類ノ圖按器具等ハ極メテ少數ナリトス而シテ漆器類ヲ大別スレハ裝飾品内地向日用品及貿易品ノ三種トス就中日用品最モ多數ヲ占メ裝飾品及貿易品之ニ次ケリ出品者總數ハ壹千五百七拾六人ニシテ出品數九千參百拾七點ノ多キニ達セリ即チ左表ノ如シ

府 縣	出品點數	出品人員	受 賞 者 數					計	出品人員ニ對スル受賞割合
			名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀		
東 京	三三三	四一	一	二	四	一	一〇	一七	四一、四六

福	秋	山	青	岩	福	宮	長	岐	滋	靜	愛	三	奈	枋	茨	新	長	兵	神	大	京
井	田	形	森	手	島	城	野	阜	賀	岡	知	重	良	木	城	湯	崎	庫	川	阪	都
三三三	三〇三	二一五	一七八	七七	九〇四	一七〇	一三六	二六四	六九	一八〇	二七二	三三〇	九六	九三	五三	三四五	三七	二二〇	一六六	三四五	三四七
七三	三八	五一	八	二二	一四九	二九	三八	二四	一一	一八九	二二	一九	三二	一〇	七	六五	二	二四	二一	八〇	三三

石	富	島	島	岡	廣	山	和	德	香	愛	高	福	佐	熊	沖
川	山	取	根	山	島	山	口	島	川	媛	知	岡	賀	本	繩
二七六	四七四	一〇一	一七	五一	九四〇	一四〇	一二六	一六〇	一九二	一八三	三三	三八	一五	三四一	九三一
二〇七	六〇	一六	一七	二九	一四九	四	八	四七	一七	二八	一六	一	三	一五	九三一

右ニ據レハ静岡縣ハ千八百八拾點ノ出品アリテ各府縣中第一位ヲ占メ和歌山ハ九百四拾點ニシテ之ニ次ク又出品人員ノ最モ多キハ石川縣ニシテ貳百七名アリ静岡縣ハ百八拾九名ニシテ第二位ニアリ而シテ三府及石川縣金澤市ノ出品ハ裝飾品ヲ主トシ髹漆及蒔繪ニ於テ精巧

ナルモノ多ク貿易品ニ於テハ静岡和歌山神奈川ノ三縣特ニ名アリ愛知縣名古屋市及石川縣山中村之ニ次キ其ノ他ノ府縣ハ内地向普通品多數ヲ占メ貿易品ハ少許ニ止マレリ又内地向普通品ニ於テ著名ナルハ和歌山縣黒江町石川縣輪島町及福島縣若松市トス又産額ハ多カラサレトモ特殊ノ漆器トシテ著名ナルハ青森縣弘前市ノ津輕塗福井縣小濱町ノ若狹塗秋田縣能代港町ノ能代塗岐阜縣高山町ノ高山春慶塗静岡市ノ木地蠟塗及新潟縣村上町ノ堆朱塗トシ尙ホ新潟縣ノ新潟漆器香川縣ノ高松漆器島根縣ノ八雲塗愛媛縣ノ櫻井塗愛知縣ノ一閑張漆器三重縣ノ桑名盆等モ亦名アリ其ノ他淨法寺塗半田塗等其ノ地方ニ依リ特ニ名稱ヲ與ヘタルモノアリ

茲ニ漆器製作技術ノ一般ヲ察スルニ前回ニ比シ多少ノ進歩ヲ現シ特ニ外觀精巧ナルモノ尠ナカラス就中其ノ重ナルモノハ大阪府ノ蒔繪漆器福井縣ノ若狹塗沖繩縣ノ沖繩漆器及島根縣ノ八雲塗ニシテ尙ホ福島縣ノ喜多方漆器石川縣ノ輪島漆器和歌山縣ノ黒江貿易漆器モ稍進歩ノ傾向アリ奈良岐阜富山秋田香川福岡六縣ノ漆器ハ寧ロ退歩ニ近キカ如シ其ノ他ノ諸縣ハ別ニ進退ヲ見ス品質ニ於テハ東京京都金澤三市ノ漆器ハ概シテ優等ニシテ髹漆蒔繪等精巧ノモノ多ク大阪市之ニ次ク而シテ茨城縣德島縣ハ頗ル劣等ナリ又彩漆ノ應用宜シキヲ得タルハ東京府ニシテ意匠ニ於テ新機軸ヲ出シタルハ金澤市ナリ即チ東京府林九兵衛ノ蒔繪手箱日進塗料工場ノ衝立及卷葉入及金澤市村上直松ノ朝顔模様手箱ニシテ此三種ハ今回出品中ニ於ケル最新進歩的製作品ナリトス

材料ノ選擇ニ於テハ東京及關西地方稍進歩ノ狀況ヲ現シ漆地トシテ木材ノ外ニ適當ノ材料ヲ使用スルモノアリ例ヘハ紙襪地ヲ用ヒ又ハボール紙ヲ應用シ又ハ石綿木屑ヲ應用スルカ如キ是ナリ而シテ東北地方ニ於テハ製製ノ木地ヲ用ユルモノ山形縣ニアリト雖トモ今回ハ其ノ出品ヲ見ス形狀寸法等ニ於テハ概シテ適當ナレトモ中ニハ甚タ不注意ニシテ例ヘハ重箱ノ換蓋ノ寸法ヲ誤リ用ニ適セサルカ如キ或ハ三組蓋ノ大サ同様ニシテ見苦シキカ如キモノナキニアラス斯ノ如ク形式不良ナルハ往々岐阜縣ノ出品ニ之ヲ見タリ其ノ他ハ著シキモノナシ模様ノ選擇ニ至テハ宜シキヲ得タルモノ甚タ稀ナリ是等ハ特ニ研究スルノ必要アリトス仕上ハ下等品ヲ除クノ外概シテ宜シキヲ得タリト雖モ品質ノ割合ニ仕上ノミヲ善クシ或ハ髹漆精功ナルモノニ粗末ナル裝飾ヲ施スカ如キ不釣合ノ製作ヲナスモノ亦鮮ナカラス價格ハ概シテ適當ナレトモ其ノ内不廉ナルモノヲ掲クレハ廣島縣ノ錆畫漆器秋田縣ノ能代塗其ノ他二三ニシテ廣島縣ノ出品ハ最モ不廉ナリ又廉價ナルハ三重縣山田ノ春慶塗石川縣ノ山中漆器静岡縣ノ貿易漆器其ノ他二三ニシテ山田春慶塗ハ廉價ナルノ點ニ於テ第一位ヲ占メタリ而シテ漆液ヲ用ヒサル塗物ハ極テ僅少ニシテ「ペイント」塗其ノ他一二ニ過キス東京府出品ノ明珍塗ハ稍有望ノモノト認メラル又漆地ハ一般ニ不良ノモノヲ認メス島根縣ニハ製作優等ノモノアルモ實用ニ適セス富山縣木地中ニハ製作佳ニシテ實用ニ適スルモノアリ此ノ外圖按及器具ニ就テハ詳記スルノ必要ヲ認メス

今左ニ各府縣ニ區別シテ其ノ出品ノ狀況ヲ概記ス

東京府 本府ノ出品ハ裝飾品及日用什器類ニシテ雜道具ノ如キ古風ノ蒔繪物ヨリ卷莨入ノ如キ蒔新ノ模様塗ニ至ルマテ各種ノ製品アリ出品人四拾壹名出品數三百二十三點ニシテ外觀精巧ナルカ如シト雖モ優等ト認ムルモノ鮮ナシ元來東京漆器ハ産額多カラサレトモ意匠ノ蒔新ト技術ノ精巧トヲ以テ卓越シ裝飾品トシテ雄飛スルノ地位ヲ占ムルハ既ニ世人ノ許ス所ナリ然ルニ之ヲ今回ノ出品ニ徴スルニ技術ノ如キ二三精巧ノモノナキニ非サルモ蒔繪ニ至テハ意匠概ネ平凡ニシテ毫モ蒔新ナルヲ見ス蓋シ從來ノ名聲ニ甘シ技術ノ練磨ヲ怠レルニ因ルカ將タ又工業界ヲ棄テ、雄ヲ美術界ニ争ハントセルニ因ルカ其ノ原因ノ孰レナルヤハ明ラカナラスト雖モ要スルニ營業者不熱心ノ結果タルハ争フヘカラサル事實ナリ日用飲食器ニ至テハ技術尙一層平凡ニシテ東京漆器ノ名聲ニ副フモノナキハ遺憾ナリ但シ形狀寸法形式等ニ於テハ特ニ不都合ノモノナク價格ハ一二ヲ除クノ外概シテ不廉ノモノナシ本府ニ於ケル漆器ノ主産地ハ東京市ニシテ明治三十四年ノ調査ニ依レハ府下ノ製造戶數四十六戶職工六十八名産額四萬三千餘圓ニシテ近年多少ノ増加ヲ見タリト雖モ其ノ需用ハ主トシテ内地ニアリ外國輸出ニ供スルモノハ極メテ少ナシ又製造所ヲ新設セシモノアレト孰レモ規模小ナリ然ルニ學術ヲ應用シテ新色ノ髹漆ヲ爲スモノアルハ嘉スヘシ其ノ他一般漆器ノ製造法ニ於テハ著シキ改良ノ形蹟ヲ見サレトモ色漆及防水塗料ノ製造ニ於テ稍新規ノ發明アリ即チ日進塗料工場ニ於テ化學ヲ應用シテ各種ノ色漆ヲ製シ之ヲ器物ニ塗抹シ研出シタルモノアリ又吉川吉次郎ノ如キモ新規ノ考案ニヨリ色漆ヲ應用セリ是レ皆其ノ技能ハ賞

スヘント雖モ未タ其ノ方法ヲ公ニセサルカ爲メ詳細ナル批評ヲ加フル能ハス吉田商會ノ明珠塗ト稱スルモノハ髹漆ニアラス護謨塗ニモアラス一種特別ノ塗物ニシテ其ノ塗料ハ容易ニ剝脱セス浸潤ノ憂ナク暑熱ニ遇フモ粘着セス光澤アルモ臭氣ヲ有シ表面平滑ナラサルモノアリ且ツ耐久性ノ如何ハ未タ知ルヘカラス將來尙一層研究ヲ要スヘシ今一二重ナル出品ニ就キ批評センニ柏原孫左衛門出品和歌ノ蒲蒔繪手箱ハ意匠舊套ナリト雖モ優麗緻密ニシテ描技ノ精巧賞スヘシ林九兵衛出品手箱ハ蠟色ニ美人草ヲ描出シ巧ニ花輪ノ紅色ヲ現セル所苦心頗ル多トスルニ足ル唯髹漆平坦ナラスシテ花面ニ瑕疵アルヲ遺憾トス而シテ彩漆ノ材質ハ高岡漆器ノ白漆ニ似テ材料ノ利用宜シキヲ得タリ又同人出品飲食器類ハ製造普通ニシテ特ニ賞揚スルニ足ラス漆工合資會社出品松鶴蒔繪書棚ハ形式圖樣ニ於テハ批難少ナキモ金具雲彫ハ雲ノ線稍狭ク迫リタルノ欠點アリ日進塗料工場出品ノ卷莨箱ハ新種ノ彩漆ヲ用ヒテ模様ヲ研出セル所頗賞スルニ足ル將來應用ニ勗メ是等ノ彩漆ヲ塗立物ト爲スヲ容易ナラシメハ裨益スル所少ナカラサルヘシ又色繪衝立ハ圖案稍佳ナレトモ其ノ價ノ三百圓ハ不廉ナリ若シ廉價ニ製作スルニ於テハ内外ノ販路増加スヘシ川之邊平右衛門出品山水蒔繪視箱ハ價格廉ナリト雖モ圖按平凡且ツ霞ノ蒔繪拙ナリ石井吉次郎ノ花瓶ハ新規ナリト雖モ手際宜シカラス今一層精巧ノモノヲ製作スルヲ要ス

京都府 本府ノ出品ハ高尚優美ナル蒔繪類及日用品等ニシテ出品者三拾九名出品數三百四拾七點ノ多キニ達シ其ノ種類モ亦少ナカラス抑モ京都漆器ハ意匠ノ優雅ト技術ノ精緻トヲ

以テ東京及金澤ト鼎立ノ勢ヲナシ就中飲食器ノ如キハ形式温雅ナルヲ以テ他ノ模範タル地位ニアリ而シテ近年有志者ノ設ケタル獎美會ハ美術獎勵ノ目的ヲ以テ意匠圖案ヲ研究セシメ又ハ漆工青年會或ハ漆器獎勵會等ヲ設ケ俱ニ共ニ斯業ノ獎勵ヲ怠ラサルカ爲メ本業ハ益益發達セリト稱セラル然ルニ今回ノ出品ニ就テ之ヲ見レハ形狀ノ優雅ナルハ甚タ賞揚スヘシト雖モ圖樣概ネ纖弱ニシテ且ツ陳腐ニ失シ技術ノ精巧ヲ以テ誇ルヘキモノ甚タ稀ナリ試ミニ侯野利助ノ景色蒔繪廣蓋田中彌兵衛及三上忠七ノ各所蒔繪料紙硯箱掛野宇吉ノ蒔繪廣盆ヲ一見セハ各高價ノ蒔繪タルニモ拘ラス圖案ノ幼稚ナル山水配置ノ不自然ナル青松烟霞ノ形狀ノ繪双紙的ナル孰レモ右ノ缺點ヲ代表スルモノ、如シ是レ蓋シ描工ニ新意匠ヲ施スノ技能ナク徒ラニ舊套ヲ墨守スルカ爲メ思想沈滯セルノ結果ナルヘシ故ニ之ヲ救済スルニハ描工ニ圖案ノ教育ヲ與ヘ纖弱ナル圖樣ノ外ニ舊套ヲ脱シテ雄大ノ意匠ヲ加味スルノ必要アリ本府ニ於ケル漆器ノ主產地ハ京都市ニシテ明治三十五年ノ調査ニ依レハ製造家百五十六戸職工五拾七名産額三拾四萬六千餘圓ニシテ前年ニ比スレハ凡ソ一割ノ減額ナレトモ三十年ニ比スレハ三割五分ノ減少ナリ是レ一般經濟界ノ不振ニ因リ其ノ需用ヲ減セシモノナリト云フ又外國向漆器ハ凡十萬九千圓ニシテ英米佛獨露支那朝鮮等ニ需用アリト稱スレトモ其ノ多クハ來遊外人カ土産トシテ購入スルモノナレハ未タ充分輸出ノ途ヲ開キタルニアラス今重ナル出品ニ就テ一二ノ批評ヲ下サンニ三上治三郎出品手箱ハ夏冬ノ意匠タル草花蒔繪ニ螺鈿ヲ應用シタルハ可ナレトモ螺鈿嵌入ノ際其ノ端ニ凹所アルハ欠點ナリ又溜塗家

具ハ形式温雅髹漆清麗能ク京都漆器ノ特長ヲ具ヘタルハ賞スヘシト雖モ技術ニ於テ進步ノ點アルニアラス毎回出品相似タルノ嫌アリ故ニ此種ノ技術ヲ地方面ニ發揮スルヲ要ス又菊山水蒔繪料紙硯箱ハ數十輪ノ菊色ヲ羅列シタルノミニシテ花面ニ一ノ變化ナキハ甚タ不自然タルヲ免レス假ニ一種ノ紋樣トシテ之ヲ見ルモ單調ニシテ趣味ヲ欠キ名家タルノ價値ヲ見出シ難キヲ憾ム西村彦兵衛ハ舊家ナルニモ拘ハラズ今回ノ出品ニ於テハ特ニ優等ト認ムルモノナシ三上幸三郎出品歌留多蒔繪衣服盆ハ高尚美麗ニシテ評判宜シト雖モ明治三十年第六回關西府縣聯合共進會出品中ニ同様ノ模範アリ考按新規ト云フヲ得ス田中彌兵衛出品蒔繪手箱ハ其ノ圖面中衣桁ニ懸ケタル衣ハ薄クシテ毫モ厚サヲ見ス又見返シニ十六ノ菊ヲ畫キタルハ他ノ模樣ヲ撰ム方適當ナルヘシ稻垣和三郎ノ艶消會席家具ハ形式温雅ニシテ巧ミニ周縁ヲ塗り分ケ髹技老練賞スヘシ

大阪府 本府ノ出品ハ裝飾品及日用品多數ヲ占メ貿易品ハ小數ニ止マリ其ノ出品人ハ八拾名出品數ハ三百四十五點ニ達セリ而シテ其ノ一般ハ進步ノ狀況ヲ呈シ稍々見ルヘキモノ少ナカラス殊ニ此地ノ蒔繪ハ圖樣概ネ雄大ニシテ京都ノ纖麗ト全ク其ノ趣ヲ異ニセルハ嘉スヘシト雖モ唯憾ムラクハ技術未タ精巧ノ域ニ達セス爲メニ雄大ノ意匠モ徒ラニ粗大ニ流ルルノ嫌アリ故ニ將來此種ノ意匠ヲ以テ尙ホ一層技術ヲ練磨シ新機軸ヲ出サンコトヲ切望ス殊ニ今後ノ商況ニヨリ若シ圖按ノ研究ヲ怠ルコトアレハ折角今日迄進步セル技術ハ再ヒ退歩スルニ至ルコトナキヲ保セス故ニ營業者ハ奮勵怠ルナキヲ要ス又近來木地トシテ適當ノ

材料ナキニアラサレトモ未タ廣ク應用セラレス當業者ハ今一段木地ノ研究ヲ施シ輸出ニ適スヘキモノヲ製造スルコト肝要ナルヘシ

本府漆器ノ產地ハ大坂市ニシテ明治三十四年ノ調査ニ依レハ製造家七十二戸職工二百六十九名アリ産額ハ二十一萬圓ニ達シ明治三十年頃ニ比スレハ凡四萬圓ノ増加ニシテ今後尙發達ノ勢アリ而シテ海外ノ需用ハ近來稍減少セシモ尙支那朝鮮亞米利加ヲ始メトシ英獨佛其ノ他ニ輸出スルモノ五萬圓ヲ下ラスト云フ

普通漆器ニ關シテハ特ニ記載スヘキ工場ノ設ケナケレトモ紙襪漆器ニ關シテハ見ルヘキモノアリ即チ芝川又右衛門ノ紙襪工場ニ於テハ水壓器ヲ用ヒ緻密ナル紙襪地ヲ製シ防水法ヲ施シ以テ漆器ノ材料ニ供セリ抑モ紙襪地ノ製作ハ已ニ海外ニ於テ行ハル、所ニシテ當人ハ本邦漆器ノ木地製作上手數ヲ要スルコト多キヲ遺憾トシ率先シテ之カ製造ノ方法ヲ採用シ近來ハ又塗下地ニ土瀝青ヲ應用シテ舊來ノ下等下地ヲ壓倒スルニ至リ又一方ニハ「ボール紙」ヲ原料トシ工費ヲ節スル等本業ニ一進歩ヲ與ヘタリト雖モ漆後表面平滑ナラサルモノ多キカ爲メ多少ノ批難アリ然レトモ此種ノ襪地ハ將來需用ノ増加スルコト信シテ疑ハサルナリ一二各自ノ出品ニ就テ批評ヲ加シ田中合名會社出品瀑布蒔繪衝立ハ着想ノ雄大ナル技術ノ精巧ナル共ニ賞揚スルニ足ルト雖モ同人其他ノ出品ハ概シテ劣等ナリ細川治三郎ノ足柄山蒔繪料紙硯箱ハ圖樣粗大ニ失シ且ツ書法ニ適セサルノ點少ナカラス東門五兵衛ノ文臺硯箱ハ雪月花ノ意匠ニシテ考案面白シト雖モ文台ノ角金具ノ雪輪ハ小品ノ權衡ヲ失シ全體

意匠ノ疵瑕トナレリ芝川又右衛門ノ紙襪漆器ハ能ク製造ノ困難ヲ排シ構造堅牢ニシテ形式又宜シキヲ得苦心ノ跡歴然タルハ特ニ賞揚スルニ足ル川端庄七出品高卓ハ形式普通ニシテ之ニ螺鈿模様ヲ應用セシハ可ナレトモ價格不廉ナリ淺野助三郎出品文臺硯箱ハ髹技頗ル佳ナレトモ稍々無骨ニシテ品位ニ欠クル所アリ蒔繪青年會出品盃洗ハ八角形ニシテ内面ニ花紅葉ノ蒔繪ヲ施シタレトモ盃洗トシテハ八角形面白カラス又花紅葉ノ數多キニ過キテ稍品位ヲ墜セルノ感アリ

神奈川縣 本縣ハ出品人二十一名出品數百六十六點ニシテ貿易品ヲ主トシ湯本産盆類之ニ次キ堆朱彫鎌倉彫等ハ小數ニ止マリ其ノ一般ハ極メテ普通ノ品物ニシテ特ニ優等ト認ムヘキモノナシト雖モ木地ノ製作及髹漆ノ技術ニ於テ稍進歩ノ狀況ヲ呈セリ而シテ内地向ニアツテハ飲食器香合硯箱盆類ヲ主トシ價格廉ニシテ需用多ク特ニ批難ノ點ナキモ輸出向漆器ノ内ニハ模様ノ撰擇宜シカラス且ツ頗ル不廉ノモノアリ今一層圖按ニ注意スルノ必要アリ

本縣ニ於ケル主產地ハ横濱市及足柄上下兩郡ニシテ前者ハ主トシテ貿易品ヲ産出シ後者ハ主トシテ内地向普通品ヲ産シ製造戶數ハ近年増加セシニモ拘ハラス明治二十七年以來其ノ産額ハ二十萬圓前後ニシテ増加ヲ見ス其ノ原因ハ明瞭ナラサレトモ箱根物産タル漆器指物挽物等ハ數年前同業者間ニ價格ノ競争アリ製品粗惡ニ流レタル結果ニアラサルカ然レトモ之ヲ救済スルノ目的ヲ以テ明治三十一年頃有志者相謀リ箱根物産合資會社ヲ設ケ粗惡品ノ製造ヲ避ケ販路擴張ヲ圖リシタメ産額ニ於テハ著シキ減少ヲ見サルカ如シ尙各自ノ出品ニ

就テ批評センニ箱根物産合資會社出品木皿ハ價格低廉製作適當ニシテ内外ニ需用アリト雖モ今一層製作上ノ改良ヲ要ス森田寅之助出品輸出向ニ枚折屏風ハ金具ノ取付堅牢ナラス且ツ蒔繪ハ扇面ノ配置宜シカラス又御所車ヲ下部ニ畫キタルハ欠點ニシテ其價格四千五百圓ハ不廉ナリトノ評アリ此ノ如キ大作ハ相當ノ意匠家ニ依頼シテ批難ナキモノヲ製出スルニ心掛クルコト肝要ナリ水野半兵衛出品金銀色寫真蒔繪額ハ從來ニ比シテ特別ノ進歩ヲ見ス抑モ寫真蒔繪ノ術ハ感光液ヲ製シ日光ノ作用ヲ受ケシメ金屬粉ヲ蒔クコトヨリ成ルモノニシテ手數ヲ要スルコト勿論ナレトモ營業トシテ多數ノ製造ヲ爲ストキハ今少シク廉價ニ仕上クルノ工夫ヲ要ス渡邊長藏出品日光陽明門ヲ現シタル堆朱書棚ハ價格三千五百圓ニシテ價格ノ割合ニ需用乏シキノ批難アリ

兵庫縣 本縣出品ハ内地向普通品及貿易品ニシテ從來ニ比シテ進歩ノ形蹟アルヲ見ス姫路市産若狹塗模造品ノ如キハ價格廉ナルモ原料ノ撰擇椽地ノ組方等宜シカラサルカ爲メ脆弱ニシテ破損シ易キノ欠點アリ出品人ハ二十四名出品數百二十點ニシテ本縣製造者數ニ比スレハ少ナシト謂フヘカラサレトモ概シテ優等品少ナキハ遺憾ナリ

本縣ニ於テハ神戸姫路ノ兩市ヲ始メトシ郡部ニ於テハ龍野町明石町其ノ他ニ於テ漆器ヲ產出スレトモ明治三十四年ノ調ニ依レハ製造戶數僅カニ四十八戶其ノ產出高ハ四萬四千餘圓ニシテ年々多少ノ増加ヲ見ルト雖モ製品堅牢ナラサルモノ多キヲ以テ當業者ハ大ニ製品ノ改良ヲ圖ラスンハ將來内外ノ販路ヲ擴張スルコト困難ナルヘシ而シテ出品中利安文次郎出

品スクリーンハ體裁宜ク其ノ價三十五圓ハ廉ニシテ外國向トシテハ有望ノモノナリ安福良之助出品組椀ハ二十人前八圓ニシテ頗ル低廉ナレハ販路擴張ノ見込アリ新宅幸吉出品ペイント塗標本ハ塗方不良ニシテ標本トシテハ缺クル所アリ岡本利兵衛出品花瓶ハ意匠宜シカラス

長崎縣 本縣ハ出品三十六點出品者僅々二名ニシテ本業ノ一般ヲ察スルコト能ハサレトモ其ノ出品ハ從來ニ比シテ稍進歩ノ形蹟アリ九一合資會社出品螺鈿漆器ハ製作可ナレトモ「テ」ブルノ表面ニ高蒔繪ヲ施シタル爲メ器物ヲ置クニ不便ノモノアリ今一層圖按ト蒔繪ニ改良ヲ加フレハ需用増加ノ見込アリ

本縣漆器ハ主トシテ長崎市ニ於テ產出シ其ノ產額モ僅ニ數千圓ニ過キス且ツ年ニ依リ產額ニ著シキ増減アリ殊ニ外國向漆器ハ露船ノ入港少キトキハ其ノ賣行ヲ減少スルコト甚シト云フ而シテ近來ハ概シテ需用減少ノ傾向アリ

新潟縣 本縣ノ出品ハ新潟市産金磨塗銀磨塗磁草塗蠟色塗蒔繪類及村上町產本堆朱彫木彫堆朱等ニシテ膳重箱硯箱小箱卷葉入菓子器香合盆類其ノ他各種ノ器物多シト雖モ著シク進歩ノ形蹟ヲ見ス出品者六十五名出品數三百四十五點ナリ新潟產ハ仕上ノ稍宜シキタメ外觀美麗ナレトモ二三ヲ除クノ外材料及形式ノ撰擇製造ノ技術ニ於テ特ニ注意ヲ施シタルモノナシ又蒔繪物ハ甚タ幼稚ニシテ圖按頗ル面白カラス且ツ價格不廉ノモノ多シ村上產堆朱物ハ卓卷菓子器類ノ多ク價格ハ割合ニ廉ニシテ内外ニ需用ナキニアラスト雖モ形式模樣

ハ千篇一律ニシテ變化少ナシ而シテ本堆朱ニ至テハ技術拙劣價格不廉ノモノ甚タ多シ
本縣漆器ノ主產地ハ新潟市及岩船郡村上町ニシテ其ノ製造戸數ハ逐次増加シ明治三十四年
ニハ二百八十九戸職工數五百二十九名ナリ而シテ其ノ產出高ハ二十七八年頃ハ凡五六萬圓
ナリシカ三十四年ニハ凡十二萬圓ニ達シタリ此ノ如ク產出高ノ増加セルハ明治三十一年後
農家ノ豊饒ニ連レテ漸ク好況ヲ呈シ北海道ニ於ケル好華客ノ需用モ増加セシト一方ニハ販
路ノ擴張ニ助メタルノ結果ナルヘシ又海外ニモ少許ノ販路アリト雖モ珍奇ノ爲メ只一時ノ
需用アルニ過キス

本縣漆器ハ一種特別ノ製品ナルヲ以テ外國ニ於テモ多少ノ需用ナキニアラサルヘシト雖モ
意匠圖按拙劣且ツ彫刻及髹漆ノ技術未熟ナルノ欠點アリ是レ教育ナキ職工ノミニ委子タル
ノ結果ナルヘシ當業者茲ニ考フル所アリシト見ヘ新潟市仁木茂平ノ如キハ明治三十四年始
メテ東京美術學校卒業生ヲ聘シ髹法ノ改良ヲ謀リ一方ニハ有志者相謀リ美術獎勵ノ目的ヲ
以テ新潟市美術學館ヲ起シ漆工部、蒔繪部、繪畫部ヲ設ケ技術者ヲ養成シツ、アリ其ノ他新潟
市漆器協話會村上工藝會ノ設ケアリ孰レモ斯業ノ發達ヲ謀ルニ有益ナル機關ナルカ如シト
雖モ未タ其ノ良果アルヲ聞カス就中美術學館ノ如キハ今一層其ノ整理ニ注意シ技術者ヲ能
ク待遇シ充分ノ研究ヲ施スコト肝要ナルヘシ今一二各自ノ出品ニ就テ概評センニ廣瀬兵五
郎出品卷簾入浪摸樣ハ甚タ拙劣ニシテ見ルニ足ラス仁木茂平出品蠟色平卓ハ技術良ク其ノ
價値アリ又朱ノ本膳ハ廉ニシテ需用多シ小山金平出品黒蠟色書棚ハ形式髹技トモ無難ニシ

テ足摺ニ銀板ヲ覆ヒシハ注意周到ト謂フヘシ只扉板ノ厚キニ過キタルノ感アリ大井猪之松
ノ出品ハ從前ニ比シテ劣等ナリ今少シク勉強センコトヲ望ム山脇三作出品古紋彫菓子器精
巧ナリト雖モ進歩ノ形蹟ナシ

茨城縣 本縣ノ出品ハ總テ春慶塗ニシテ膳盆ノ類多數ヲ占メ其ノ數五十三點アレトモ出品
人員ハ僅々七名ナリ材料ノ選擇ハ不適當ナラサレトモ髹技皆宜シカラス就中蒔繪春慶塗ハ
外觀甚タ悪シク一見不快ヲ感ス抑モ普通春慶塗ハ黃色ヲ帶フルモノニシテ之ニ金色ノ蒔繪
ヲ施ストキハ色ノ配合宜シカラス且ツ費用嵩ムノ欠點アリ又批目塗ニ蒔繪ヲ施シタルハ益
品位ヲ墜サシムルモノナリ

本縣ノ漆器製造戸數ハ二十戸以上ニシテ其ノ產出高ハ凡四五萬圓ニ及ヒ近年大ニ増加セリ
ト雖モ品質劣等ニシテ僅ニ縣内ノ需用ヲ充タスニ過キス本業者ハ宜シク大ニ奮發シ形式ノ
撰擇木地ノ製作塗上方等ニ於テ大改良ヲ施スノ要アリ

栃木縣 本縣ノ出品ハ實用的食器ヲ主トシ製作普通ニシテ特ニ進歩ノ形蹟ナシ楓ノ摸樣ハ
本縣ノ特色ト云フヘクシテ大概其ノ摸樣ヲ現セリト雖モ圖案ハ拙劣ナルモノ多シ出品者十
名出品數九十三點アリ總シテ外觀ハ餘リ宜シカラス形狀ハ一二新規ノモノアレトモ無骨ニ
過キタリ例ヘハ旭塗會席膳ハ大體ヲ方形ニシ其ノ内面ニ圓形ノ凹部ヲ設ケ根來塗ノ法ヲ施
シ篋ニ日ノ出ノ意ヲ現シタレトモ品位ニ於テ大ニ缺クル所アリ但シ其ノ出品ハ概シテ廉ニ
シテ需用鮮ナカラス

本縣ノ漆器ハ明治三十年頃一萬八千餘圓ヲ產出セシモ三十四年ニハ僅々三千餘圓ニ過キス
當業者宜シク其ノ源因ヲ調査シ販路ノ擴張ヲ謀ルヘシ

奈良縣 本縣ハ元來根來塗古代模造品ヲ以テ特産トシタレトモ今回ハ此種ノ出品多カラス
反テ美麗ナル研出シ根來膳黒塗螺鈿文庫及蒔繪物ノ類多ク出陳セラレ外觀稍一變セルノ感
アリ蓋シ舊來ノ漆器ハ近頃外人ノ嗜好減シ輸出多カラサルカ故ニ當業者モ大ニ考慮スル所
アリ法隆寺東大寺等古器物ノ摸寫ノミニ留意セサリシノ結果ナランカ出品人員ハ三十二名
出品ハ九十六點ナリ概シテ形式面白カラス意匠蒔繪共ニ拙ニシテ價格ハ稍不廉ナリ

本縣ニ於ケル漆器ノ主産地ハ奈良市ニシテ縣下ノ製造戸數凡七十戸職工二百五十名以上ア
リ產出額ハ近年頗ニ増加シ明治二十七年ヨリ三十年頃迄ハ三四萬圓ナリシモ三十四年末ノ
調査ニ依レハ八萬ヲ越ヘタリ斯ノ如ク產額増加シタル原因ハ明瞭ナラサレトモ明治三十二
年ニ漆器企業組合ヲ設ケ粗製濫造ノ弊ヲ矯メタルト當業者モ少シク奮發スル所アリ古代模
造品ノ外稍新規ノモノヲ製作シ内外ニ販路ヲ求ムルニ勉メタルハ蓋シ其ノ一因ナランカ然
レトモ今回ノ出品ハ意匠蒔繪等未タ幼稚ニシテ見ルニ足ラサルモノ多ク外人ノ嗜好ニモ適
セサルモノアリ目下ノ形勢ハ品質ニ於テ稍退歩ノ感アリ特ニ吉野漆器ハ價廉ナレトモ頗ル
粗末ナルヲ以テ當業者ハ尙一層注意シ根來塗ニ於テハ形式ヲ撰ミ螺鈿應用品ハ意匠ヲ能ク
シ一方ニハ成ルヘク製造費ヲ節シテ販路ノ擴張ヲ圖ルコト肝要ナルヘシ

三重縣 本縣ノ出品ハ蘇ヲ畫キタル桑名盆及山田ノ春慶塗重箱ヲ主トシ膳椀ハ比較的少ナ

ク品質普通ニシテ著シキ進歩ヲ見サレトモ桑名盆ハ一種ノ趣味ヲ有シ髹技卑シカラス漆畫
ニハ多少見ルヘキモノアリ山田産春慶塗重箱ハ日用品トシテ適當ニ且ツ價格ノ廉ナルハ他
ニ比類ヲ見ス出品人ハ僅ニ二十一名ナレトモ出品數ハ三百三十八點アリ外觀ハ餘リ見惡キ
ニアラサレトモ木地ノ撰擇不適當ニ且ツ製作不良ノモノアリ意匠ハ概シテ變化ナシ

本縣漆器ノ主産地ハ桑名町及山田町ニシテ製造戸數二十餘戸ナレトモ產額ハ近年著シク増
加シ明治二十七年頃ハ四萬餘圓ナリシニ三十年ニハ六萬圓トナリ三十四年ニハ十八萬圓ニ
達セリ然レトモソノ販路ハ内地ニ止マリ未タ海外ノ輸出ヲ見ス

右ノ如ク著シキ進歩ヲ見スト雖モ當業者ノ中ニハ意匠及塗方其ノ他ニ於テ改良ニ意ヲ注ク
モノアリ例ヘハ橋本佐兵衛ハ春慶塗ノ澱色ニ淡色ヲ以テ種々ノ模様ヲ現スコトヲ工夫シ又
洗朱ニ化學作用ニ依リ簡明ニ黒色模様ヲ現ハシ片岡善兵衛ハ技師ヲ聘シ職工ヲ養成シ自カ
ラ飽目ヲ利用シ鑿ヲ以テ各種ノ圖案ヲ木地ニ施シ或ハ沈金ヲ應用シタルカ如キ是レナリ而
シテ意匠ニ於テハ嘗テ大森惟中カ本縣技師タルトキ注意ヲ與ヘタルヲ以テ多少改良ノ傾向
アリト雖モ未タ良好ト稱スルヲ得ス

愛知縣 本縣出品ハ膳盆重箱文庫硯箱ノ如キ内地向普通品多數ヲ占メ裝飾品及一閑張小箱
ノ類之ニ次キ貿易品ハ甚タ小數ニ止マリ出品點數ハ二百七十二其ノ人員ハ二十三名ニシテ
現在ノ製造戸數及產額ニ比スレハ多シト謂フヘカラス製品ノ外觀ハ從來ニ比シ稍精巧ナリ
ト雖モ漆地及漆液ノ撰擇不良ニシテ開期中瘡目ヲ現シタルモノアリ蒔繪類ハ一二ヲ除クノ

外意匠猶幼稚ニ技術モ拙劣ニシテ三府及金澤ノ製品ニ比スレハ及ハサルコト遠シ鬆技ニ至テモ未タ甚タ佳ナリト云フヲ得ス然レトモ形式寸法等ニ於テ不適當ノモノ少ナク價格ハ概シテ廉ニシテ販路廣シ

本縣漆器ノ主産地ハ名古屋市ニシテ明治三十四年ノ調査ニ依レハ製造戸數二百餘戸職工凡三百五十名アリ産出高ハ十八萬餘圓ニシテ明治二十七年頃ニ比スレハ凡二倍半ニ達セリト雖モ海外輸出ニ供スルモノハ其ノ半ニ至ラス且ツ近來ハ餘リ増加ヲ見スト云フ製造法ニ至テハ其ノ改良ニ苦心スルモノアリ即チ黒目漆製造ニ就テハ齒車ヲ應用シタル黒目機械ヲ用ヒ人工ヲ以テ熱ヲ與ヘ製造費ヲ節シ蒔繪ニ於テハ電氣鍍金術ヲ應用シ多數ノ需用ニ應スヘキ方法ヲ講シ塗下地ニ至テハ嘗テ東京高等工業學校ニ於テ研究シタル結果ノ良好ナルヲ認メ守隨鐘三郎ノ盡力ニ依リ職工ヲシテ其ノ方法ヲ傳習セシメ又一方ニハ蒔繪ノ職工徒弟ヲ養成スルモノアリト雖モ未タ充分其ノ効果ヲ見ス蓋シ日尙淺キカ爲ナルヘシ抑モ名古屋市ハ東海道ノ中央ニ位セル大都會ニシテ交通不便ナラス原料タル木材ハ木曾山中ヨリ多量ノ供給アリ優等ナル漆液ハ三河地方ヨリ産出シ圖案師蒔繪師ノ如キハ東西兩京ヨリ之ヲ聘スルニ難カラス漆器ノ製造地トシテ適當ナルヲ以テ當業者ハ大ニ奮發シ成ルヘク教育アル技術者ヲ使役シテ本業ノ改良進歩ヲ謀ルコト肝要ナルヘシ尙ホ各自ノ出品ニ就テ批評センニ守隨鐘三郎出品蒔繪小箱ハ意匠佳ナリト雖モ少シク瘠目ヲ現ハシタルハ欠點ナリ金森春次出品蠟色ノ中次ハ合口宜シカラス黒田茂助出品溜塗小箱ハ意匠稍雅致アリ

ト雖モ鬆技猶幼稚ナリ

静岡縣 本縣ノ漆器ハ貿易品及内地向普通品ニシテ静岡ノ特産タル木地蠟塗寄セ木細工及輸出向壁板小箱ノ類殊ニ饒多ナリ而シテ出品人ハ百八十九名ナレトモ出品數ハ壹千百八拾點ニ達シ出品ノ多キコト各府縣中第一位ヲ占メリ輸出向漆器ハ室内裝飾用品ヲ主眼トシ蒔繪雄大ニシテ壯觀人目ヲ惹クニ足リ加フルニ價格至廉ニシテ輸出ノ巨額ニ達セルハ當業者苦心ノ結果ニシテ頗ル賞スヘシト雖モ翻テ其ノ製法ヲ察スレハ工費ノ節減ニノミ急ニシテ榛地ト云ヒ蒔繪ト云ヒ工作最モ粗漏ヲ極メ製品ノ薄弱ナル從來ニ見サル所ナリ假令ハ壁板ノ如キハ駿河産ノ杉板ヲ削リ其ノ縁ニハ鐵釘ヲ用ヒ「ボール」紙ヲ貼付シ粗末ナル下地ヲ施シ之ヲ塗上ケ簡單ナル蒔繪ヲ施スモノニシテ本邦固有ノ漆器ニ比スレハ雲泥ノ差アリ斯ノ如キハ今日ニ於テ遽カニ破綻ヲ露ハサストスルモ永遠ノ信用ヲ維持シ販路ヲ擴張スル所以ノ道ニアラス若シ之ヲ今日ノ有様ニ放任センカ早晩恐惶ヲ來スコトナキカヲ患フルナリ内地向漆器ハ家具重箱其ノ他各種ノ塗物アリ概シテ製作佳ナリ就中特産タル木地蠟色塗ハ堅牢ニシテ能ク實用ニ適シ技術又精巧ノモノ多シ蒔繪ニ至テハ濱松漆器合資會社ノ如キ甚ク熱心ノモノアリ近來多少其ノ面目ヲ改メタレトモ未タ幼稚ノ域ヲ脱セス又價格ハ二三不廉ノモノアレトモ概シテ品物ニ相當セリト云フヘシ

本縣漆器ノ主産地ハ静岡市ニシテ濱名郡濱松町之ニ次ク明治三十四年ノ調査ニ依レハ縣下ノ製造家ハ六百五十五戸職工二千九百九十三名アリ産出高ハ五十四萬五千圓ニ達シ其ノ大

部分ハ海外ノ需用ニ供スルモノニシテ近年益々發達ノ狀況ヲ呈セリ殊ニ明治二十九年静岡漆器製造株式會社設立後貿易品ノ過半ハ同社ニ於テ製造セラレ之カ爲メ静岡漆器業ヲシテ益々盛大ナラシムルニ至レリ

製造法ニ於テハ近來本地ニ「ボール紙」ヲ應用スルコト重ク「ローム酸加里」ヲ用ヒテ「阿膠地」ヲ製スルコト及「蒔繪」ニ「アルミニウム粉」ヲ使用スルカ如キハ一般普通トナリ特ニ改良ノ著シキモノヲ認メサレトモ「彩漆」ニ於テハ「井上楠」之助等稍新規ノモノヲ工夫セリ又當業者ノ内ニハ改良ニ熱心セルモノアリ「海野善次郎」其ノ他有志者ハ意匠圖案ヲ研究スル所ノ團體ヲ設ケ或ハ静岡漆工學校ヲ創立シ職工等ヲ教育スルニ至リタルヲ以テ將來大ニ面目ヲ改ムルニ至ラシカ出品中ニ於テ「稻葉合名會社」出品「書棚」ハ形式稍宜シキヲ得「榘技」ノ精巧ナルコト比類少ナシト雖モ「書棚」トシテハ本地「蠟塗」ハ其ノ當ヲ得タルモノト云フヘカ「ラス」中川長吉ノ「紙製盆」ハ特色タル「紙漆地」ニ頗ル進歩ノ跡アリ且ツ「青地」ニ「金虫喰」ヲ露ハシタル所「榘技」頗ル老練ナリ與田澄平ノ如輪杓八寸重伊藤伊六研出シ「蒔繪」重武藤孫右衛門如輪小箆筍等ハ堅牢且ツ價格相當ニシテ需用廣シ

滋賀縣 本縣ノ出品ハ「卓花臺」^{ホカサ}「行器等」ヲ主トシ家具「重箱」廣蓋等ノ實用品ハ比較的少ク出品ノ一般ハ進歩ノ點ヲ認メス出品人十一名出品點數六十九ニシテ外觀ハ惡シキニアラサレトモ材料及形式ノ撰擇製造ノ方法ニ於テハ從來ト異ナル所ナシ形狀モ不適當ノモノアリ例ヘハ伴宗七出品「卷足机」ノ如キハ臺面ノ兩端ヲ圓形ニナシタルカ爲メ筆ノ落チ易キノ欠點アリ仕

上ハ一二良好ノモノナキニアラサレトモ概シテ普通ト稱スヘク價ハ余リ廉ナラス

本縣漆器ノ主産地ハ「犬上郡彦根町」ニシテ「滋賀郡蒲生郡」等ニ於テモ多少ノ産出アリ其ノ製造戶數凡六十戶職工六百名ニ近ク明治三十四年ニハ二十三萬餘圓ノ産出アリ從來ニ比シ大ニ増加ノ勢ヲ示セリト雖モ外國輸出ニ供スルモノ少ナシ

岐阜縣 本縣ノ出品ハ「秋田縣」ノ「能代塗」ニ亞キ名聲高キ「飛彈春慶塗」及「紅溜塗」ヲ主トシ「蒔繪」及「透繪」ノ類之ニ次キ其ノ中最モ多キハ會席「膳」ニシテ「鮑目批目」等雅致ヲ有シ「販路」廣シト雖モ從前ニ比シ概シテ進歩ヲ認メス出品人ハ二十四名出品數ハ二百六十四點ニシテ一般ノ外觀ハ惡シキニアラス「春慶塗」ハ「能代塗」ニ比シ意匠等ニ於テ稍優ル所アリト雖モ形式ヲ誤リタルモノアリ又「蒔繪」ヲ施シテ「品格」ヲ墜シタルモノアリ其ノ價格比較的低廉ナルモノアルハ或ハ價格競争ノ結果ナルヘシ「紅溜春慶塗」ハ稍精巧ノモノヲ見ルモ其色濃厚ニ過キ「透繪物」ハ品位ニ於テ欠クル所アリ

本縣漆器ノ主産地ハ「大野郡高山町」ニシテ製造戶數凡三十戶アリ其ノ産出高ハ明治三十四年ニハ僅々二萬六千圓ニ過キササルモ明治二十七八年頃ニ比スレハ増加ヲ示セリ斯ノ如キハ内地ニ於ケル小部分ノ需用ヲ有スルニ過キササルノ現象ナレハ製造家ハ今一層製品ヲ改良シ巧ミニ販路ノ擴張ヲ謀ルコト肝要ナリ今各自ノ出品ニ就テ一二ノ批評ヲ下サンニ「福壽瀧藏」出品「單月盆」十枚七圓ハ「廉價」ナレトモ「黃色春慶塗」ニ「金蒔繪」ヲ施シタルハ配合ヲ誤リタルモノニシテ甚タ見苦シキヲ以テ無地ノ儘形式等ノ改良ヲ謀ルヲ得策トス又「角盆」ノ縁ノ合セ目ヲ前

ニシテ模様ヲ現ハシタルハ式ニ適ハス福田吉郎兵衛ノ飽目會席膳十枚六圓五十錢ハ廉價ナリト雖モ全體ニ於テ今少シク改良ヲ施シ品位アル品物ヲ製スルトキハ尙一層需用多カラシ長野縣 本縣出品ハ福島町檜川村其ノ他ノ製作ニ係ル家具重箱組盆等ノ如キ實用的普通品ニシテ品質堅牢且ツ價格頗ル低廉ナルモノ多數ヲ占メリ出品人三十八名出品數百三十六點ニシテ從來ニ比シ進歩ノ狀況ヲ認ム出品ハ凡テ實用ヲ旨トシ特ニ裝飾ヲ施サ、ル爲メ外觀美麗ナラサレトモ木地ハ能ク乾燥ニ注意シ特ニ蒸氣乾燥法ヲ行ヒタルモノアリ漆液ノ撰擇宜シキヲ得下地ニ注意スル爲メ堅牢ニシテ需用廣キハ嘉スヘシ

本縣ニ於ケル製造家ハ三百餘戸職工約八百五十名アリ明治三十四年ニハ貳拾六萬四千餘圓ノ産額ニシテ之ヲ明治二十八年頃ノ産額拾壹萬六千圓ニ比スレハ倍額以上ニ達セリ此ノ如ク著シク産額ヲ増加セルハ一般購買力ノ増進ニ因ルヘシト雖モ當局者ノ獎勵ニ依リ品質ヲ改良シ以テ販路ノ擴張ヲ謀リタルモ亦其ノ一因ナルヘシ其ノ出品中手塚万右衛門ノ黒本膳二十人揃拾圓ノ如キハ特ニ製作佳良ニシテ價格頗ル低廉ナレトモ塗方ニ今一層注意ヲ要ス巢山幸作ノ黒坪平ノ如キハ價格甚タ低廉ニシテ商品トシテ適當ナレトモ今一層奇麗ニ製作スルコト肝要ナリ篠田歎二ノ紫色塗小箱ハ其ノ苦心ノ形跡ヲ見ルト雖モ色塗トシテハ他府縣ニ比シ甚タ劣等ナリ

宮城縣 本縣出品ハ裝飾品食器其ノ他ニシテ黒朱溜塗ノモノ多ク蒔繪物ハ少數ニ止マリ出品ハ百七拾點其ノ人員貳拾九名ナリ外觀精巧ナルモノ一二點アレトモ概シテ粗末ナルモノ多ク木地ノ撰擇不良ニシテ瘠目ヲ現シ或ハ塗方不注意ニシテ塗むらヲ生シタルカ如キ欠點少ナカラズ形狀寸法等ハ特ニ不適當ノモノヲ見スト雖モ意匠模様甚タ拙ニシテ例ヘハ恭桶ニ驚ト鳥ノ模様ヲ現ハスニ當リ夏冬ノ驚ヲ混シタルカ如キ或ハ銅盃摸造品ニ數多ノ紅葉ヲ畫キ却テ品位ヲ墜シタルカ如キハ特ニ其ノ著シキモノトス然レトモ價格ハ概シテ低廉ナリ本縣漆器ハ仙臺市ヲ始メトシ玉造郡其ノ他ニ於テ産出シ製造家ハ明治三十四年ノ調ニ依レハ百三十六戸職工二百八十九名アリ其ノ産出高ハ七萬八千圓弱ニシテ近年増加ノ勢ヲ示セリト雖モ單ニ東北地方ノ需用ヲ充タスニ過キス

製造法ニ於テハ木地製造器械ニ就テ特許ヲ得タルモノアルモ其ノ他ニ改良ノ點アルヲ見ス尙ホ一二ノ出品ニ就テ批評ヲ下サンニ熊谷熊吉出品蠟色書棚ハ形式稍備ハリ髹技精巧ニ價格低廉ナレトモ甲板及棚板ハ反リ過キ或ハ甲板ノ兩側ニ出過キタルカ如キハ品位ヲ墜スノ原因ナリ又温泉村ノ漆器ハ價格低廉ナレトモ形式總テ不良ナリ

福島縣 本縣出品ハ若松漆器多數ヲ占メ喜多方漆器之ニ次キ殆ト全部ハ内地用品ニシテ板物ニ在テハ朝縁角盆膳重箱ノ類ヲ主トシ丸物ニ在テハ椀類及盃ヲ主トシ裝飾品及貿易品ハ極メテ少ナシ而シテ出品人ハ百四拾九名出品數ハ九百四點ノ多キニ達シタリ尙其ノ一般ヲ察スレハ内地向漆器ハ進歩ヲ見ス貿易品ハ甚タシキ衰微ヲ來セリ若松漆器ハ日用品ヲ主トシ品質良好ニシテ價格低廉ヲ以テ世ニ現ハル今日ノ出品モ無地物ノ製作ハ一般ニ佳良ニシテ殊ニ椀類ハ木地ノ撰擇善ク前回ノ出品ニ比シ劣ル所ヲ見ヌ又艶消塗ノ如キ多ク精巧ノモ

ノアリト雖モ蒔繪物ニ至テハ技術拙劣圖案頗ル幼稚ニシテ見ルヘキナシ例ヘハ重箱ノ如キ
孰レモ同一形狀ノ松ト鶴ノミヲ畫キ毫モ變化ナク新規ノ點ナキカ如キ當業者思想ノ幼稚ナ
ルヲ知ルニ足ル又價格ハ一般ニ低廉ニシテ内地ノ需用多キハ喜フヘシト雖モ貿易品ヲ度外
視スルノ弊アルハ頗ル遺憾ナリ當局者宜シク是等ノ弊ヲ矯メ益々本業ノ發達ヲ圖ルヘシ
喜多方漆器ハ大概丸物ニシテ髹漆ノ技術ニ於テ稍進歩ヲ見ルト雖モ本地ノ撰擇ニハ餘リ意
ヲ用ヒサルカ如シ又價格ハ低廉ニシテ現在ノ需用ニ適スト雖モ形式意匠等ニ於テ今一段ノ
改良ヲ要ス

本縣漆器ノ主産地ハ若松市及耶麻郡喜多方町ニシテ明治三十四年ノ調査ニ依レハ製造家三
百六十二戸職工九百十名ヲ有シ其ノ産額三十三萬餘圓ニシテ明治二十七八年頃ニ比スレハ
約拾萬圓ノ増加ヲ見タリト雖モ大概内地ノ需用ニ供スルモノニシテ海外輸出ハ多カラス今
日輸出ニ供スルモノ數萬圓アリト稱スルモ當業者不熱心ニシテ貿易品ニ意ヲ注カス加フル
ニ静岡黒江等ノ漆器貿易盛ニシテ之カ爲メ壓倒セラレ從前ニ比スレハ著シク衰退シ今後モ
尙ホ減少ノ勢アリ抑モ輸出ノ減少ハ憂フヘキ現象ナルヲ以テ已ニ第四回博覽會開催ノ際ニ
モ當業者ノ注意ヲ促シタルニモ拘ハラズ今日尙依然トシテ之ヲ度外視スルノ弊風ヲ絶ツ能
ハサルハ頗ル遺憾トスル所ナリ出品中新城猪之吉本膳椀ハ形式無難ナリト雖モ膳ノ塗方稍
粗ニシテ膳椀ノ調和ヲ缺キタリ高瀬喜左衛門ノ塗分會席膳ハ形式製作共ニ普通ニシテ價格
不廉ナリ菊池健次郎ノ卷簾箱ハ蓋ノミ蒔繪ヲ施シタルモ稍不釣合ノ感アリ片桐與八郎ノ艶

消塗ハ本縣トシテハ精巧ナリト謂フヘシ

岩手縣 本縣出品ハ其ノ特産タル椀類多數ヲ占メ膳盆重箱ノ如キ角物少ク其ノ一般ハ特別
ノ進歩ヲ見ス出品人二十二名出品數僅ニ七十七點ニ過キス且ツ同一形狀ナル無地物ヲ多ク
陳列セルカ爲メ外觀宜シカラス然レトモ價格頗ル廉ニシテ需用少ナカラス特ニ小畑春治ノ
青貝入卷簾箱ハ價格ニ比スレハ割合ニ製作宜シク青貝嵌入ノ技ニ至テハ中ニハ巧ミニシテ
有望ノモノタルヲ認ム此ノ如キ品物ハ今一段ノ意匠ヲ凝シ良品ヲ製スレハ内外ニ販路ヲ擴
張シ得ルノ見込アリ本縣ノ漆器ハ盛岡市二戸郡淨法寺村荒澤村其ノ他ニ製出スルモノニシ
テ明治三十四年ノ調査ニ依レハ製造家七十三戸職工百二十四名アリ産額ハ二萬餘圓ニシテ
三十年頃ニ比シ増減ナク製品ハ總テ内地ノ一部分ニ於テ需用アルニ過キス

青森縣 本縣出品ハ堅牢ナル津輕塗板物ニシテ食卓重箱會席膳菓子器硯箱等ノ實用品ヲ主
トシ裝飾品ハ稀ナリ出品ハ百七十八點ナレトモ出品者ハ僅々八名ニ過キス津輕塗ハ特ニ蒔
繪ヲ施サスト雖モ塗方仕上等ニ注意セル爲メ外觀奇麗ナルモノ多シ然レトモ箱類ハ内塗粗
末ナルノ欠點アリ材料ノ撰擇ニ於テハ甚タ進歩セサレトモ本地ノ製作下地ノ方法等ハ注意
行届キ形式ニ於テモ不都合ノモノ少ナク模様ハ以前ノモノト異ナリ稍新規ノモノアリ從來
ニ比シ進歩ノ形跡アリト雖モ福井縣物産タル若狹塗ノ方進歩ノ度比較的高キノ感アリ津輕
塗ハ本地ノ乾燥及製作ヨリ仕上ニ至ルマテ約四十二回ノ手數ヲ施シ頗ル丁寧ナル製作ニシ
テ俗ニ之ヲ馬鹿塗ト稱シ甚タ堅牢ナリト雖モ孰レモ手工ニ依ルモノニシテ勞力ヲ費スコト

多ク從テ價格不廉ナリ此ノ如キハ工業トシテ不適當ナレハ成ルヘク機械ヲ使用シ勞力ヲ省クヘキ方法ヲ講スルコト肝要ナリ

本縣漆器ノ主産地ハ弘前市ニシテ青森市ノ如キハ微々タルモノナリ全縣下ノ製造家ハ明治三十四年ノ調査ニ依レハ僅ニ十八戸職工七十一名ニシテ其ノ産額ハ二萬七千圓餘ニ達シ二十八九年頃ノ産額九千圓ニ比スレハ凡ソ二倍ノ増額ナルヲ認ム蓋シ多少品質ノ改良ヲ謀リタルト一般購買力ノ増進セルトニ因ルモノナルヘシ然レトモ海外ニ需用ナキハ遺憾ナリ製造法ノ改良ニ就テハ著シキモノヲ見サレトモ模様ヲ現スノ方法ニ於テ稍新規ノモノアリ即チ漆器樹産合資會社ノ如キハ解説書ニ記載スル所ニ據レハ天然ニ成レル木理ノ構造ニ從ヒ種々ノ模様ヲ現ハシ諸種ノ色漆ヲ塗上ケ之ヲ摺上クルコトヲ工夫シ製品ニハ稍新規ノ模様ヲ現セリ今一二ノ出品ニ就キ批評ヲ加フレハ左ノ如シ

福士久吉出品唐机ハ塗方佳ナレトモ形式面白カラス且價格モ今少シ廉ナルヲ望ム三上平次郎出品茶棚ハ形式宜シカラス又津輕塗標本ハ五寸五分四方ノ塗板四十四枚ヲ屏風トナシタルモノニシテ漆工家ニハ有益ナル品物ナリト雖モ價八十圓ハ不廉ナリ寧ロ三寸四方位ニシテ十五圓以内ノモノヲ作ル方便利ナルヘシ又盛蓋硯箱ハ製法佳ナレトモ意匠幼稚ナリ山田浩藏出品色紙箱ハ天然梅實ヲ應用シテ模様ヲ現シ工夫新規ナルモ手際宜シカラス

山形縣 本縣出品ハ硯箱卷貫入菓子器朝綠ノ如キ内地向普通品ニシテ岩手青森秋田ノ諸縣ト異ナリ蒔繪物多數ヲ占メ無地物少數ニ止マレリ出品人ハ五十一名出品ハ二百十五點ニシ

テ其ノ一般ハ外觀惡キニアラサレトモ木地ノ撰擇宜シカラス乾燥不良塗方粗ニシテ瘡目ヲ現シ或ハ組合セ方粗末ニシテ破壊シ易キモノアリ形狀不良ノモノ少カラス蒔繪物ニ在テハ意匠甚タ幼稚且ツ模様ノ撰擇不注意ノモノアリ然レトモ中ニハ製作佳ナルモノアリ菅原三郎ノ衣服盆草蒔源助ノ手袋箱等はレナリ而シテ價格ハ一般ニ廉ナリ

本縣漆器ハ山形市飽海郡酒田町西田川郡鶴岡町其ノ他ニ於テ産出シ明治三十四年ノ調査ニ依レハ製造家百十七戸職工二百六十一名アリ産額七萬八千餘圓ニシテ近年漸ク増加ノ勢ヲ呈セリ

秋田縣 本縣漆器ハ有名ナル能代産ノ春慶塗ヲ主トシ朱塗黒塗及蒔繪物少ナク丸物ニ於テハ椀類ヲ主トセリ其ノ出品人三十八名出品數ハ三百三點ニシテ外觀美麗ナリト雖モ木地ノ乾燥法漆液使用法等ハ從來ト異ナル所ナク形狀不適當ノモノアリ而シテ價格ハ最モ不廉ナリ抑モ能代塗春慶塗ノ不廉ナルハ世人ノ已ニ認識セル所ニシテ其ノ價值ハ品物ニ現シ精良ナルコト他ニ比類ナシトノ説ハ自他共ニ許ス所ナリシニ今回ノ出品ヲ觀レハ石岡庄壽郎及大坂龜吉ノ出品ヲ除クノ外精巧品ニ乏シク全體ニ於テハ退歩ノ形蹟アリ將來ハ形式及意匠ニ改良ヲ加ヘ特有ノ髹技ヲ怠ラス益々之ヲ發達セシメ一方ニハ學術ヲ應用シテ勞力ヲ省キ價格ヲ低廉ナラシメサレハ將來販路ノ擴張ヲ見ルコト困難ナルヘシ

本縣漆器ノ産地ハ山本郡能代港町秋田郡大館町雄勝郡川連村仙北郡角館町其ノ他各郡ニシテ能代港町尤モ名アリ全縣下ノ製造家ハ二百四十戸職工五百十七名アリ産額ハ約八萬圓ニ

シテ近來産額ノ著シキ増減ヲ見ス且ツ其ノ需用ハ餘リ廣カラス
福井縣 本縣出品ハ若狹塗ヲ主トシ福井市坂井郡及今立郡其ノ他ノ出品之ニ次キ品物ハ凡
テ内地向ニシテ膳重箱硯箱箸箱菓子器卷篋入等ノ角物多ク今立郡ノ椀類之ニ亞ク出品人ハ
七十三名出品ハ三百三十二點ニシテ一般ノ外觀惡シカラス就中若狹塗ハ進步ノ狀況ヲ呈シ
タルカ如シ即チ木地及漆液ハ能ク撰擇シ從來ニ比シ異ナラサレトモ塗方精巧ニシテ從來ノ
如ク内塗ノ粗末ナルモノナク意匠ハ嶄新ニ且ツ模様ヲ巧ミニ現シタルモノアリ又陶器ニ漆
ヲ塗リ面白キ製作ヲナシタルモノアリ仕上宜シク價格ハ普通ナルモ今少シク廉價ニ製出シ
得サルニアラス將來ハ固有ノ塗方ヲ摸樣的ニ少シク應用シテ意匠宜シキ品物ヲ製スルカ或
ハ其ノ他ニ改良ヲ施シ價格ノ低廉ヲ圖レハ益々其ノ需用増加スヘシ又今立郡河和田村ニ産
スル漆器ハ吸物椀菓子椀八十椀ノ類ニシテ數年前少シク進歩ノ狀況ヲ呈セシモ晩近稍粗製
ニ流レ木地ノ乾燥惡シク下地不充分ノモノアリテ往々剝脱ノ憂アリ形狀寸法モ中ニハ不適
當ノモノアリ故ニ將來ハ今一段堅牢ヲ主トシ價格ハ福島石川和歌山等ニ比較ヲ取り改良ヲ
圖ランコト肝要ナルヘシ福井市坂井郡三國町其ノ他ノ出品モ從來ニ比シ多少精巧ノモノア
レトモ概シテ幼稚ノ域ヲ脱セス

本縣漆器ノ產地ハ遠敷郡小濱町雲濱村西津村福井市今立郡河和田村粟田部村坂井郡三國町
其ノ他ニシテ若狹ノ小濱最モ名アリ全縣下ノ製造家ハ明治三十四年ノ調査ニ依レハ百五十
七戸職工九百餘名其ノ産額ハ十五萬餘圓ニシテ明治三十年頃ニ比スレハ殆ント倍額ニ達セ

リ蓋シ品質ヲ改良シ販路ノ擴張ニ勉メタルハ其ノ一因ナルヘシ製造所ノ新タニ設ケラレタ
ルハ遠敷郡ニシテ若狹漆株式會社ハ西津村ニ若狹漆器株式會社ハ雲濱村ニアリ

石川縣 本縣ノ出品ハ金澤漆器山中漆器輪島漆器等ニシテ裝飾品及日用品多數ヲ占メ貿易
品ハ少數ニ止レリ出品人ハ二百七名ナレトモ出品數ハ比較的少數ニシテ僅ニ二百七十六點
ニ過キス是レ本縣ハ他府縣ト異リ一人ニ多數ノ出品ヲ爲サ、リシニ依ル

金澤漆器ハ裝飾品ノ精巧ヲ以テ著ハレ東京及京都ノ漆器ト覇ヲ爭フノ地位ニアリ之ヲ今回
ノ出品ニ徵スルニ髹漆殊ニ蠟色塗ニ於テ技術ノ精巧ナル形式ノ整正ニシテ品致アル他府縣
ニ冠絶セルモノアリ蒔繪ニ至テハ猶多少欠クル所アリテ從來ニ比シ特ニ進歩ノ形蹟ヲ認メ
ス而シテ意匠ハ嶄新ニシテ技術ノ精巧ニ伴ヘルモノ少ナカラスト雖モ亦餘リ古風ニ則リ進
歩ニ遠サカルモノナキコトアラサルヲ以テ將來ハ益々奮勵シ新機軸ヲ出サンコトヲ望ムナ
リ

山中漆器ハ廉價ナル丸物類ヲ主トシテ堅牢ノ點ニ於テハ輪島ニ及ハサルコト勿論ナリト雖
モ漆地ノ製作一般ニ巧妙ニ且ツ形式宜シキヲ得テ販路ノ廣キヲ致セルハ喜フヘシ今回ノ出
品中竹内藤三郎ノ會席膳具ハ形狀温雅髹漆艶麗ニシテ殆ント京都品ヲ壓倒セントスルノ勢
アリ他日若シ板物ノ製造發達シ丸物ト相併テ技術ノ進歩ヲ見ルニ至ラハ飲食器トシテ京
都ノ勁敵タルニ至ランカ抑モ板物ノ製造ニ就テハ數年前山中村立漆器徒弟學校ニ於テ校長
北澤岩治等研究ヲ施シ稍其ノ成績ノ現ハレントスルノ時ニ當リ經費支辨ノ途ニ窮シ終ニ廢

校スルニ至リ之カ爲メ折角ノ研究モ一部分水泡ニ歸シタリ此ノ如キハ山中村ノ不名譽ニシテ又本業ノ爲メ惜マサルヲ得ス蒔繪ニ至テハ一般幼稚ニシテ竹内藤三郎ノ出品ヲ除クノ外稍退歩ノ形跡アリ當業者宜シク大ニ奮發シ殊ニ外國向ニ意ヲ注キ益々輸出ノ増加ヲ圖ルハシ輪島漆器ハ飲食器ヲ主トシ耐久堅牢ノ點ニ於テ他府縣ニ冠絶シ販路廣シ今回ノ出品ハ無地物ニ於テハ進歩ノ形跡アレトモ一般形狀ハ依然トシテ素朴ニ偏シ技術又精巧ト稱スル能ハス就中蒔繪物及沈金物ノ中ニハ未タ舊套ヲ脱セス圖按頗ル幼稚ナルモノアリ本縣漆器ノ主産地ハ金澤市江沼郡山中村及鳳至郡輪島町ニシテ明治三十四年ノ調査ニ依レハ其ノ製造家六百三十六戸職工一千六百八十五名アリ産出高ハ六拾八萬貳千圓ニシテ明治二十八年ニ比スレハ倍額ニ達シタリ製造法ノ改良ニ就テハ特ニ著シキモノヲ見スト雖モ輪島漆器ニ於テハ同業者共同シテ木地挽工場ヲ設ケ蒸氣力ヲ使用シテ製造費ノ節約ヲ謀レリ又太田政吉ハ某鹽類ヲ用ヒ化學的作用ニ依リ朱塗ニ黑畫ヲ現ハセリ尙ホ江沼郡山中村ニ於テモ平野某等同様ノ方法ヲ行ヒツ、アリ尙本縣出品ノ一二ニ就テ批評センニ金澤市鶴田和三郎出品書棚ハ形式秀麗ニシテ稜角能ク整ヒ特技ノ布目塗ヲ施セル所極メテ精巧ニシテ場内ノ逸品ナレトモ脚ノ形狀稍批難アリ澤田次作ノ草花蒔繪辨當箱ハ圖樣嶄新ナラサレトモ四季ノ草花ヲ描出セル所緻密纖麗ヲ極メ此種ノ蒔繪ニアリテハ精巧ナルコト比類尠シトス大垣昌訓ノ蒔繪盆ハ粟ニ小鳥ヲ描出シ圖樣嶄新雄壯ニシテ技術甚タ精巧ナリ唯小鳥ノ位置ニ不自然ノ嫌アルヲ遺憾トス村上直松ノ蒔繪手箱ハ蠟色ニ三輪ノ牽牛花ヲ描キ圖樣嶄新淡

雅ニシテ形式又秀麗ナリ但色彩ヲ飾ラントシテ青貝ヲ挿入セシハ少シク雅趣ヲ損セルノ嫌ヒアリ河合一政羽蒔繪平卓ハ優美ニシテ價百八拾五圓ハ不廉ナラスト雖モ羽ノ多キハ缺點ナリ米永太郎春日卓ハ技術宜シキモ書棚ハ形式ニ於テ扉ノ部分批難アリ太田喜久太郎金地手箱五百三十圓ハ製作佳ナレトモ價不廉ナリ越野半平花紅葉蒔繪會席家具二十人揃千二百圓ハ頗ル不廉ナリ島野新太郎長盆ハ將來貿易品トナルノ見込アリ故ニ今少シク廉價ナルヲ要ス山中村竹内藤三郎出品塗分會席膳碗二十人前二百圓ハ此地ノ製作トシテハ優等ニ位シ價格相當ニシテ需用廣シ山岡理八ノ輸出向梅形三組井九圓ハ目新ラシキ品物ニシテ販路廣カルヘシ蒔繪付丸形文庫ハ奉書紙ヲ收ムルニ適セス且ツ蒔繪拙ナリ輪島町八井四十四郎出品蠟色八寸五段重箱ハ形式普通ニ品質堅牢髹技精巧ナレトモ手際巧ミニ過キ隅々ノ際立テケタルハ使用上毀損ヲ氣遣ハシムルノ恐レアリ

富山縣 本縣出品ハ高岡漆器及遠山漆器ヲ主トシ裝飾品多ク實用的普通品之ニ亞ク而シテ高岡漆器ハ一種ノ雅致ヲ有シ外觀美シキモノアリ出品ハ内地向多キモ又輸出品ナキニアラス出品者ハ六十名ヲ越ヘサルニ出品點數ハ四百七十四ノ多キニ上リ一見盛ナルカ如シト雖モ千遍一律ニシテ概シテ進歩ノ狀況ヲ認メス元來高岡漆器ハ木地ノ乾燥組立漆液ノ撰擇法ニ於テハ他ノ地方ト異ナル所ナケレトモ下地ハ弱クシテ剝脫シ易キノ缺點アリ之ニ對畫ヲ施スヲ以テ製品ハ一般ニ堅固ナラス且ツ今回ノ出品ハ密陀僧ノ應用宜シカラス意匠圖案拙劣ナルモノ頗ル多ク價格ハ不廉ナルノ感アリ將來ハ製法ヲ改良シ意匠圖案ニ注意シ需用廣

キモノヲ製出スレハ隨テ販路モ擴張セラルヘシ
本縣ニ於ケル主産地ハ高岡市ニシテ富山市西礪波郡下新川郡等之ニ次ク製造家ハ明治三十四年ニ二百四十戸職工五百四十名アリ産出高ハ二十萬圓ヲ越ヘ明治三十年ニ比スレハ凡ソ倍額ニ及ヒ明治二十七年ニ比スレハ殆ント三倍ヲ増加セリ今各自ノ出品ヲ摘ミ批評センニ駒榮善助出品棚物ハ形式備ハリ模様宜シト雖モ扉ノ金具鮮美ニ甲板厚キニ過キタリ魚津漆工會ハ出品多ク恰モ賣店ノ如キ感アリ會席膳ノ如キハ價格低廉ナリト雖モ製作宜シカラス此種ノモノハ現時北國地方ニ需用アレトモ今少シク改良ヲ施セハ京坂地方ニ販路ヲ得ルコト難カラサルヘシ石井勇介出品俱理彫卷蓑箱ハ特殊ノ製品ニシテ精巧ナリト雖モ今少シク品位高キモノヲ希望ス城端町最佳清左衛門出品海邊模様文臺硯箱代價百七十圓ハ品物相當ノ價格ナリト雖モ製作技術ハ未タ幼稚ノ域ヲ脱セス今一層奮勵シテ城端町漆器ノ再興ヲ勉ムヘシ島小一郎出品葡萄彫刻大卓一對千三百七十圓ハ價格不廉ニシテ到底貿易品トシテハ需用廣カラサルヘシ

鳥取縣 本縣ノ出品ハ膳碗盆大平等ノ如キ内地向普通品ニシテ新機軸ヲ出セシモノナク出品人十二名出品點數四十七ニシテ鳥取市及郡部ノ製作ニ係レリ出品中木村龜藏ノ八寸重箱ハ價格低廉品質佳ナリト雖モ其ノ他ハ概シテ品質劣等ナリ

本縣ニ於ケル漆器ノ製造家ハ三十九戸職工百二十四名産出高二萬八千餘圓ニシテ明治三十年頃ニ比シ倍額以上ニ達セリ是レ特ニ品物ノ改良ヲ謀リタルニ非サレトモ一般ニ需用ノ増加シタル爲メナルヘシ今一層奮發シ品質ニ改良ヲ施セハ山陰道ニ於テ販路ヲ擴張スルコトヲ得ヘシ

島根縣 本縣ハ透繪物ヲ主トシ重箱水板茶盆等多數ノ出陳アリ其ノ數百一點ナルニ出品人ハ僅ニ十六名ナリ松江市ノ産ナル色書入漆器ハ地質弱カラス外觀惡シカラス意匠佳ナルモノアリテ從來ニ比スレハ進歩ノ形蹟アリト雖モ一般ハ尙幼稚ナリ又膳類ハ形式ニ於テ欠クル所アリ

本縣漆器ノ主産地ハ松江市ニシテ明治三十四年ノ調査ニ依レハ全縣下ノ製造戸數五十三職工八十五名アレトモ其ノ産額僅ニ千三百餘圓ニ過キス明治三十年頃ニ比スレハ約八分ノ一ニ減少シ海外輸出ハ極メテ僅少ナリ

岡山縣 本縣ハ膳碗盆類及木地ノ出品十七點其ノ人員僅ニ七名ニシテ外觀宜シカラス品質ハ劣等ナレトモ價格ハ廉ナリ即チ出井千束ノ卷物式罽物臺五十錢ノ如キハ法外ノ廉價ト云フヘシ

本縣ノ漆器ハ明治三十四年ノ調査ニ依レハ産額ハ八千圓餘ニシテ特ニ著シキ發達ヲ見ス

廣島縣 本縣ノ出品ハ主トシテ錆繪模様ノ器物ニシテ卷蓑入花瓶花臺重箱盆等ノ種類ナリ其ノ出品人九名出品數五十三點ニシテ外觀惡シカラサレトモ製作ニ手數ヲ要シ永キハ五六年ヲ費スモノアリ價格モ非常ニ不廉ニシテ需用少ナキモノ、多キハ遺憾ナリ就中木下兼太郎ノ肉池二寸四角ニシテ五拾圓ハ頗ル不廉ナリ蓋シ好事家ヲ除クノ外需用ナカルヘシ

本縣漆器ノ主産地ハ廣島市ニシテ縣下ノ製造戸數ハ六十二戸職工百二十三名其ノ産額十一萬三千餘圓ニ達シ數年前ニ比シ大ニ増加ノ勢ヲ現セリ

山口縣 本縣ハ出品人二名出品數八點ニシテ嶺新ノモノナシ岩本梅之進出品大内會席膳ハ製作佳ナレトモ進歩ヲ見ス本縣漆器ハ吉敷郡ニ於テ一二ノ製造家アルニ過キスシテ産額モ僅々九百圓ヲ越ヘス

和歌山縣 本縣出品ハ黒江漆器多數ヲ占メ日方町及和歌山市産出ニ係ルモノ之ニ次ク而シテ其ノ種類ハ内地向普通品即チ飲食器外國貿易品及裝飾品ノ三種ニシテ飲食器多數ヲ占メタリ出品人ハ百四十九名出品數九百四十點ニシテ出品ノ多キコト靜岡縣ニ亞ケリ本縣黒町ハ日用漆器ノ最大産地トシテ夙ニ世ニ著ハレ製造技術ノ如キモ近來漸次進歩ヲ加ヘ花塗艶消シ及春慶塗等ニ於テ技術ノ見ルヘキモノ少ナカラス又彩漆ノ研究ニ熱心ナルモノアリテ新規ノ彩漆ヲ發明スルニ至リタルハ頗ル嘉スヘシト雖モ内地向漆器ハ其ノ特長タル膳椀ノ類多少面目ヲ改メタルノミニシテ一般ハ木地ノ乾燥法漆液ノ撰擇下地ノ方法塗方仕上等ニ於テ精巧ナルモノヲ見ス就中木地ノ乾燥ノ如キハ甚ダ不注意ニシテ瘡目ヲ現スモノ多シ蓋シ廉價ヲ競フノ結果ナルヘシ形式模様等モ撰擇宜シカラサルモノアリ蒔繪物ハ明治三十一年ニ黒江町立漆器學校設立以來多少面目ヲ改メ蠟色塗研蒔繪等ニ於テ見ルヘキモノナキニアラサレトモ未タ其ノ販路ヲ擴張スルニ至ラス概シテ粗製品多キノ感アリ又外國貿易品ニ至テハ堀田幸次郎等熱心ニ改良ニ從事スルト雖モ工費ノ節減ノミヲ競フカ故ニ其ノ製造ノ

粗濫ナル殆ント靜岡漆器ト撰フ所ナシ而シテ和歌山市及日方町ノ製品モ同様ニシテ粗製ノモノ多シ此ノ如キハ將來益々本邦漆器ノ名聲ヲ失墜スルコト明カナルヲ以テ將來ハ價格ノ競争ヲ止メ堅牢ナル品物ヲ製出シテ輸出ノ増加ヲ圖ルコト肝要ナリ

本縣ハ本邦ニ於ケル漆器最大産地ニシテ海草郡黒江町最モ名アリ其ノ他同郡日方町及和歌山市等ニ於テモ製造家少ナカラス明治三十四年ノ調査ニ依レハ全縣下ノ製造家ハ五百八十四戸職工三千二百十八名アリ産出高ハ百四萬九千餘圓ノ多キニ上リ明治二十七年頃ニ比スレハ殆ント倍額ニ達セリ是レ需用ノ増加ヲ示スモノナリト雖モ外國貿易品ハ衰退ノ狀況ヲ呈セリ明治二十七年以前ニ在テハ毎年海外ニ輸出スルモノ二十四五萬圓ナリシニ近來ハ十六萬圓以下ニ減セリ蓋シ製品粗雜ナルカ爲メ外人モ本邦漆器ヲ厭フノ結果自然外國ニ於ケル需用ノ減少ヲ來タシタルモノナリ當業者宜シク大ニ挽回ノ法ヲ講ス可シ

製造法ノ改良ニ於テハ著シキ點ヲ認メサレトモ石油發動機ヲ使用シテ木地製作上ニ勞力ヲ省キ或ハ色漆ヲ發明シ新規ノ模様ヲ現スカ如キ小部分ニ於テ改良ノ形蹟ヲ見タリ

技術獎勵法ニ於テハ稍見ルヘキモノアリ即チ組合員中新規ノ意匠ヲ案出シタルモノハ定款ニ依リ六十日間特勢ノ權ヲ與フルコト是レナリ又組合員ニ於テハ其ノ雇使スル職工ニ鑑札ヲ與ヘ去就常ナキノ弊ヲ矯メ技術ヲ練磨セシメツ、アリト云フ今其ノ重ナル出品ノ一二ニ就キ批評センニ木下重藏出品艶消塗家具ハ形式佳ニシテ蒔技老巧ナリ又價格ハ二十人前百十圓ニシテ不廉ナラス室川作兵衛ノ地紙形盆ハ青色ノ鮮麗ナル從來見サル所ナリ荒木長五

郎ノ五色塗分ケ盆及紺青硯蓋ハ新種ノ彩色ヲ應用シテ配色ノ自在ナル頗ル苦心ノ形蹟アリ
木山定楠ノ草花蒔繪書棚ハ形式宜シク描技見ルヘキモノアリ但價格七百五十圓ハ稍不廉ナ
ルノ感アリ反テ會席膳ノ方製品ノ割合ニ廉ナリ川端勇次郎ノ料紙文庫硯箱ハ歴史蒔繪机大
ニ失シ大阪蒔繪ト同一ノ弊ニ陥レルハ惜ムヘシ

德島縣 本縣出品人八名出品數百二十六點ニシテ椀類多數ヲ占メリ而シテ出品ハ二三ヲ除
クノ外頗ル劣等ニシテ材料ノ撰擇不良ニシテ塗方粗末ニ外觀宜シカラス殊ニ蒔繪物ハ技術
拙ナリ唯價格ノ低廉ナルカ爲メ需用ノ途アリト雖モ今後ハ品質ニ改良ヲ謀ルコト肝要ナル
ヘシ

本縣漆器ノ主產地ハ美馬郡半田村ニシテ明治三十四年ノ調ニ依レハ職工三百三十名産額七
萬六千圓ニシテ近來減少ノ傾向アリ當業者宜シク大ニ奮發シ需用ノ増加ヲ謀ルヘシ

香川縣 本縣出品ハ一種獨特ノ製品ニシテ蒔醬及存星ノ硯箱卷葉入重箱等ヲ主トシ裝飾品
及外國貿易品トシテ適當ノモノヲ見ス出品人ハ四十七名出品數百六十點ニ達シ外觀惡シカ
ラサレトモ材料ノ撰擇ヨリ塗方及仕上ニ至ルマテ從來ト異ナル所ナク意匠模樣ノ如キモ陳
腐ナルモノ多ク全躰ノ形勢稍退步ヲ示セリ本縣ノ製造中ニハ藤川某等ノ如キ著名ノ人物ア
レトモ舊法ヲ固守シ新機軸ヲ出サ、ルハ甚タ遺憾トスル所ナリ將來ハ大ニ奮發シ今一層下
地ノ改良ヲ謀リ意匠塗方等ニ注意ヲ施スコト肝要ナルヘシ

本縣漆器ノ主產地ハ高松市ニシテ香川郡仲多度郡等ニモ多少ノ産出アリ明治三十四年ノ調

查ニ依レハ製造家ハ五十三戶職工二百六十一名アリ産出高ハ五萬圓ニシテ明治三十年頃ニ
比スレハ凡二割強ノ減額ヲ見タリ

愛媛縣 本縣出品ハ主トシテ櫻井塗ト稱スル漆器ニシテ沈金及蒔繪膳椀重箱ノ類多數ヲ占
メ出品人十七名ニシテ出品ハ百九十二點ニ達セリト雖モ製造粗ニシテ特ニ進歩ノ形蹟ヲ見
ス但價格ハ廉ニシテ田舎向下等日用品トシテ九州其ノ他ニ需用アリ將來ハ今少シク奮發シ
品質ヲ改良スレハ中流以上ノ需用ヲ充タスコト難キニアラサルヘシ

本縣漆器ノ主產地ハ越智郡櫻井村ニシテ縣下ノ製造家ハ明治三十四年ノ調ニ依レハ三十七
戶職工三百五十三名ニシテ十萬圓ノ産額アリ近來需用ノ増加ヲ見ス

高知縣 本縣ハ出品人二十八名出品百八十三點アリ其ノ特技トスルハ古代塗物ハ一種ノ雅
品ナリト雖モ朱泥色濃ニ過キ品位乏シキ憾アリ今一層塗色ニ注意シ品位アルモノヲ製作ス
ルコト必要ナルヘシ長岡郡曲木地辨當箱類ハ堅牢ニシテ廉價ナレトモ塗方粗末ナリ要スル
ニ本縣ノ漆器ハ甚タ幼稚ナルヲ以テ當業者ハ將來大ニ奮勵ヲ要スル所ナルヘシ

本縣漆器ハ高知市長岡郡土佐郡等ニ産出シ明治三十四年ノ調査ニ依レハ製造家三十三戶職
工五十八名アレトモ其ノ産額僅ニ一萬一千圓ニ過キス之ヲ二十七八年頃ニ比スレハ多少増
加セリト雖モ微々タル有様ニテ其ノ地方ニ少許ノ需用アルニ過キス

福岡縣 本縣出品ハ特産タル籃胎漆器多數ヲ占ムレトモ出品人ハ六名出品點數モ僅々三十
三ニ過キス其ノ一般ハ用途廣カラズ價格ハ甚タ不廉ニシテ前回ニ比スレハ退歩ノ形蹟アリ

又加工皮製重箱ハ堅牢ナレトモ其ノ體裁宜シカラス且ツ價格不廉ニシテ需用乏シカルヘシ
 本縣ハ漆器ノ製造家僅少ニシテ其ノ製造高モ僅ニ五百餘圓ニ過キス之ヲ明治三十年頃ニ比
 スレハ凡九割ノ減額ヲ見タリ蓋シ用途ニ適セサル漆器ヲ製作スルカ爲メナルヘシ
 佐賀縣 本縣ハ出品人僅ニ一名出品數八點ニシテ他ニ比較スヘキモノナシト雖モ出品ハ概
 シテ粗末ニシテ意匠拙劣ナリ
 本縣ノ漆器ハ明治三十四年ニ約千八百圓ノ產出アリ製造家モ僅ニ四戸ニシテ其ノ近隣ノ需
 用ヲ充スニ過キス

熊本縣 本縣ハ出品人三名出品數五點ニ過キス其ノ中竹原市平ノ鍋ハ金屬漆ニ温石即チ蛇
 紋石及石綿粉ヲ混シ漆ヲ塗リ酸化第二鐵(紅殼)ヲ撒布シ燒付ケタルモノニシテ考案新規ナリ
 ト雖モ内面粗ニシテ用ニ適セサル場合多シ然レトモ其ノ考案ハ宜シキモノナルヲ以テ今少
 シク製作ニ意ヲ注カハ或ハ需用ノ途ヲ得ルニ至ランカ
 本縣ハ製造家二十六戸アレトモ其ノ產額ハ僅ニ一萬餘圓ニシテ從來ニ比シ多少増加ノ勢ア
 リ然レトモ尙ホ其ノ事業ハ甚ダ幼稚ヲ免レス

沖繩縣 本縣出品ハ朱塗及青貝入漆器ニシテ重箱小箱卷蓆入盆類等多數ヲ占メタリ而シテ
 出品人ハ十五名ナレトモ出品ハ三百四十一點ノ多キニ上リ且ツ外觀奇麗ニシテ諸人ノ注目
 ヲ惹ケリ製造家ハ材料ノ撰擇製作意匠ニ意ヲ注キタルカ爲メ大ニ進歩ノ狀況ヲ呈シ出品中
 見ルヘキモノ少ナカラス即チ丸盆ニハ艶消摸樣ヲ施シタルモノアリ又青貝ノ應用佳ニシテ

頗ル精巧ナルモノアリ例ヘハ米田惣四郎ノ二枚青貝屏風ハ堅牢ニシテ品質善ク價格百圓ハ
 不廉ナラス此種ノ青貝漆器ハ將來貿易品トシテ大ニ有望ナルヲ以テ益々品質ヲ改良シ意匠
 ヲ能クスルコト肝要ナルヘシ

本縣漆器ハ主トシテ那覇區ニ於テ產ス製造家ハ四十二戸職工二百十九名產額二萬二千圓ニ
 シテ近年大ニ發達ノ傾向アリ元來同地ノ漆器ハ多ク購買者アルヘキモノナルヲ以テ當業者
 奮發スルトキハ内外ノ需用ヲ増加スルコト困難ナラサルヘシ

各府縣出品ニ就テノ概況右ノ如シ今更ニ本業全躰ノ產額販路及ヒ進歩ノ跡ヲ觀察シ併セテ
 後來施行ヲ要スルト認ムル改良上ノ意見ヲ述ヘントス

抑モ本邦漆器業ハ近年漸次發達ノ勢ヲ呈シ明治三十四年ノ調査ニ依レハ製造家五千三百九
 十三戸職工一萬七千九百四十一名ヲ有シ其ノ產出高五百七十六萬餘圓ニ達シ之ヲ明治二十
 七八年頃ニ比スレハ殆ント倍額ニ及ヒタリト雖モ是レ唯内地ニ於ケル需用ノ増加ニ伴フモ
 ノニシテ特ニ海外ノ需用増加セルニアラス即チ海外輸出高ハ同年ノ調査ニ依レハ九十九萬
 餘圓ナルモ明治二十七八年以後或ハ増加シ或ハ減少シ平均スレハ著シキ増加ヲ見ス試ミニ
 明治二十七年後ノ產出高及輸出高ヲ示セハ左ノ如シ

年次	產出高	輸出高
廿七年	二、五九五、〇四九 ^四	七九七、五三九 ^四

三	三	三	三	三	廿	廿
十	十	十	十	十	九	八
四	三	二	一	年	年	年
年	年	年	年	年	年	年

三、一一九、二六八
三、二九五、九四七
四、一〇六、四七七
四、八八五、四三二
五、六四〇、二二八
六、二八四、三一八
五、七六八、〇九九

一、〇八三、二二二
九四八、七三四
七六七、四〇一
七八二、九三三
九八八、六六二
一、〇六六、三九〇
九九四、六五四

四〇

即チ明治三十四年ノ如キハ輸出額ハ僅ニ産出額ノ一割七分餘ニ過キス今之ヲ本邦工業中漆器ト同様ノ地位ニアル陶磁器ニ比スルニ其ノ産出高ハ凡ソ七百萬圓海外輸出高ハ凡二百五十萬圓アリテ其ノ三割五分餘ニ當リ尙ホ年々増加ノ趨勢ナリトス然ルニ漆器外國貿易ノ振ハサルコト斯ノ如キハ甚タ遺憾ナリト謂ハサルヘカラス近來露國ニハ精巧緻密ナル一種ノ塗物アリ又獨佛等ニハ漆液ヲ用キスシテ本邦漆器ノ摸造品ヲ製造シ其ノ品質堅牢ニシテ價格低廉ナルモノアルニ反シ本邦漆器ハ同業者價格競争ノ結果品質粗惡ニ流レタルヲ以テ海外需用者ハ自然本邦漆器ヲ厭フニ至レリ蓋シ是レ漆器貿易不振ノ主因ナルヘシ

又製造所ニ就テハ各府縣トモ多少工場ノ増設アリト雖モ其ノ規模小ニシテ製造所トシテ誇ルニ足ルヘキモノ極メテ鮮ナク大阪芝川工場ヲ除クノ外著シキモノアルヲ聞カス

塗物類ノ一般製作ニ於テハ著シキ改良進步ノ形跡アルヲ認メスト雖モ木地ノ乾燥法木地ノ製作法下地ノ方法彩漆ノ製造漆液ノ黒目方及乾燥法塗風呂ノ構造法等ノ如キ小部分ニ於テ

改良ヲ施シタルモノ少ナカラス例ヘハ木材ヲ乾燥スル爲メ石川縣鳳至郡輪島町ニ於テハ同業者共同シテ蒸氣乾燥場ヲ設ケ其ノ結果良好ナルヲ得同縣江沼郡山中村ニ於テハ「ロール」ヲ應用シタル木板彎曲器械ヲ工夫シ大阪府ニ於テハ紙様地ノ製造ヲ始メ福島縣若松市ニ於テハ木地挽器械ヲ發明シタルモノアリ静岡縣其ノ他ニ於テハ堅牢ナル膠下地ノ製法ヲ工夫シ東京ニ於テハ生漆ノ黒目方ニ就テ新規ノ考案ヲ立テタルモノアリ漆器ノ乾燥ヲ迅速ナラシムル爲メ輪島山中等ニ於テハ重クロム酸加里クリセリン其ノ他ノ藥品ヲ加ヘテ成蹟稍宜シキモノアリ塗風呂ノ構造ニ就テハ福井縣今立郡河和田村ニ於テ少シク工夫ヲ凝シタルモノアリ彩漆ノ應用ニ於テハ和歌山縣海草郡黒江町福井縣遠敷郡小濱町神奈川縣横濱市静岡縣静岡市長野縣下伊那郡飯田町東京市其ノ他ニ於テ工夫ヲ凝シ就中東京市ノ如キハ頗ル良好ノモノヲ製出シ得タリ右ノ外又寫真蒔繪ノ發明アリ金澤市ニハ意匠ノ新案ヲ施シ適用宜シキヲ得タルモノアリ又漆器以外ノ塗物ニ於テハ漆液水館グリセン土厩青等ノ混合物ヲ用ユルモノアリ或ハ明珍塗ノ如キ一種ノ塗物ヲ發明シタルモノアリ總シテ漆器ノ製作ニ於テハ他ノ化學製品ト異リ容易ニ學術ノ應用ヲ見ルコト困難ナルニモ拘ハラズ此ノ如キ新工夫ヲ成シ得タルハ頗ル賀スヘキコトニシテ蓋シ斯道ノ學者技術者ノ研究ト當業者ノ勉勵ト相須テ得タルノ結果ナルヘシ即チ遠クハ獨逸人オスカルコルセルト吉田博士カ農商務省地質調査所ニ於テ漆液ノ研究ヲ施シタルヲ始メトシ素養アル技術者ノ研究ヲ施シタルモノ少カラズ殊ニ東京美術學校卒業生ノ内ニハ熱心之カ研究ニ從事シタルモノアリ又數年前ニハ東

京高等工業學校ニ於テ漆器改良試験ヲ施シ其ノ成績ハ甚タ良好ナリト謂フヲ得サリシモ多少當業者ノ參考トナリタルモノアリ近クハ農商務省工業試験所ニ於ケル研究ニシテ今回其ノ成績ヲ發表セシ如キ漆液ノ黒目方膠下地ノ製法彩色漆ノ材料楮地ノ製法等ニ於テ一大改良ヲ加ヘタルアリ將來益々本業ノ改良進歩ヲ見ルニ至ルハ期シテ俟ツヘシ

元來本業ハ其ノ性質上ヨリシテ大規模ノ工場組織トナスハ困難ナルモノナリ故ニ今日ニ於テ四五ノ會社ヲ除クノ外大概毎戸製造ニ屬シ從テ未タ專門技術者ヲ多ク雇聘スルニ至ラス然レトモ當業者中ニハ素養アル技術者ノ必要ヲ感シ專門家ヲ聘シ或ハ特ニ其ノ徒弟ヲシテ漆器學校ニ入學セシムルモノアリ例ヘハ新潟市仁木茂平ノ如キハ東京美術學校卒業生ヲ聘シ其ノ成績稍良好ナルモノアリ尙今回ノ出品ニ於テ新機軸ヲ出シタルモノ、製作人ヲ取調ヘタルニ概シテ素養アル技術家ノ手ヲ籍リタルニアラサルハナシ以テ漆器製作上ニ學術應用ノ必要ナルヲ知ルヘシ又職工其ノ他ノ獎勵法ニ就テハ特ニ記載スヘキモノヲ聞知セサリシモ黒江漆器組合ニ於テハ新案ヲ出シタルモノニハ二ヶ月間ノ特製權ヲ與フルノ規程ヲ設ケ稍其ノ効果アリシト云フ

今回ノ出品ヲ通觀スルニ中ニハ品質ニ對スル裝飾仕上等不釣合ノモノアリ例ヘハ堅牢ナル木地ヲ撰擇シタルニモ拘ハラヌ塗方粗末ナルアリ或ハ塗方精巧ノモノニ粗末ナル蒔繪ヲ施シタルアリ或ハ品質餘リ良好ナラサルモノニ精巧ナル蒔繪ヲ施シ堅牢ナル金具ヲ取付ケタルカ如キモノアリ凡ソ品物ハ各部トモ釣合ノ宜シキヲ以テ貴シトスルモノニシテ金具ノ堅

牢ナルモ木地薄弱ナレハ其ノ効ナク美麗ナル塗ヲ施スモ蒔繪粗末ナレハ品位ヲ墜スニ至ルヲ以テ當業者ハ此邊ニ意ヲ注キ充分ノ改良ヲ圖ルコト肝要ナリ

研方ニ於テハ現在手工ニ依ルモノ多キモ是レ頗ル手數ヲ要スルモノニシテ勞銀ノ騰ルニ從ヒ益々其ノ改良ノ必要ヲ認ムヘシ現在ニ於テハ此點ニ於テ欠クル所アルヲ以テ研磨機械ヲ工夫スルコト必要ナリ而シテ其ノ方法ハ砥石ヲ回轉セシムヘキ仕掛ケトナシ歐米ニ於テ使用スル石材研磨機械ノ如キモノヲ應用セハ或ハ多少ノ効果アラシカ

漆液ノ乾燥法ニ就テハ現在適當ノモノナキモ乾燥劑塗風呂等ノ研究ヲ施スコト必要ナルヘシ又此頃工業試験所ニ於テ新規ノ硬化法ヲ發明セシカ當業者ハ其ノ方法ヲ應用シ共同シテ必要ナル装置ヲ設クルニ於テハ或ハ意外ノ好結果ヲ奏スルコトアラン

同一模様ノ蒔繪ヲ爲スニ當リ現在ハ護謄版等ヲ使用スルモノアレトモ尙一層研究ヲ施シ電氣蒔繪ヲ容易ナラシムルノ工夫ヲ爲スコト肝要ナラサルカ

木材ノ乾燥法ニ就テハ現在蒸氣ノ應用アリト雖モ未タ完全ナラス此點ニ於テモ改良ノ必要アリ而シテ佛國ニ於テハ凡ソ百ボルト以上ノ電壓ヲ用ヒ硼酸曹達トレヂン酸曹達複鹽ヲ利用シ木汁ト置換ヘシメ洗滌シテ空氣乾燥ヲ行フト聞クモ是レ將來充分ノ試験ヲ經タル後ニ非レハ其ノ結果ノ良否ヲ知ラス聊カ參考ノ爲メニ茲ニ之ヲ附記ス

右ハ主トシテ專門技術上ニ關スルモノナリ而シテ現在ニ於ケル貿易品ノ製造ハ頗ル粗雜ヲ極ムルヲ以テ今少シク意ヲ注キ價格ノ競争ヲ止メ堅牢ニシテ美麗ナルモノヲ製スルコト肝

要ナリ

寛政年間長崎港ヲ經テ和蘭へ輸出シタル漆器ノ今日ニ存スルモノヲ見ルニ椽地ハ楨ノ柱目ヲ用ヒ布着セ堅地蠟色塗ニシテ蒔繪モ亦親切周到ナリ本邦漆器カ海外ニ於テ名聲ヲ博シタルモ偶然ニアラス品質堅牢且ツ高尚優美ナルノ點ニアリシヤ明ナリ之ヲ今日ノ貿易品ニ比スレハ實ニ雲泥ノ差アリ故ニ今日ニ於テハ既ニ外人モ本邦漆器ノ粗雜ナルヲ知リ會テ之ヲ嗜好セシモノモ漸次嫌厭スルニ至ルハ勢ノ免レサル所ニシテ貿易ノ振ハサル寧ロ當然ト謂フヘシ當業者ハ速ニ品質ノ改良ヲ圖リ一方ニハ常ニ海外ニ於ケル嗜好及其ノ變遷ヲ調査シ恰當ノ品物ヲ製出シ之カ取引ニハ信用ヲ重シ荷モ德義ニ逆フコトナク誠實勉勵以テ其ノ發達ヲ謀ルヘキナリ

尙將來ノ方針ニ就キ一言スヘキコトアリ他ナシ塗物ノ目的ハ品物ヲ裝飾スルト同時ニ之ヲ成ルヘク堅牢ニシテ使用ニ堪ヘシムルニアリ例ヘハ椽ノ如キハ木地ノミナレハ液體浸入シ甚ク使用ニ不便ニ且ツ破損シ易キヲ以テ之ヲ塗抹スルナリ木器ニワニスヲ塗ルハ裝飾ト同時ニ外氣其ノ他ノ侵害ヲ防キ以テ永キ使用ニ堪ヘシムルニ在リ金屬ニ塗抹スルハ裝飾ト防銹等ノ目的ヲ達スルニ在リ故ニ塗料ハ多クノ場合ニ方リ防水防銹等ノ効ナカル可カラス又或ル場合ニ於テハ絶縁保温防火等ノ効力アル塗料ヲ要スルコトアルヘシ然ルニ此等ノ目的ヲ達セントスルニハ漆液ノミヲ以テハ困難ナリトス近來獨逸國ニ於テハ松脂其ノ他ヲ應用シ光澤アル黑色塗料ヲ製セルモノアリト聞ク而シテ其ノ價モ亦廉ナリト又露國ニ於テモ新

規ノ塗物ヲ製出セリト云フ斯ノ如ク漆器單獨ニテハ結局世ノ競争場裡ニ立ツ能ハサルニ至ルヤモ計ルヘカラス故ニ所要ノ方向及器物ニ應シ漆液或ハ他ノ塗料ヲ用ヒ以テ適當ナル物品ヲ製スルハ得策ニシテ必シモ漆液ノミヲ保守スルノ必要ナカルヘシ元來漆器ハ本邦固有ノ物産ナルノミナラス特ニ美術品トシテハ保護獎勵ノ必要アルヲ以テ漆器トシテモ益々進歩ヲ謀ルノ必要ナルハ論ヲ埃タサルナリ又椽地ノ原質ニ木材ノミヲ用フルニ限ラス或ハ一般ノ纖維質セルロイド其ノ他ヲ應用スルノ必要アリ尙其ノ裝飾ノ材料ニハ各種ノ金屬非金屬等ヲ用フル場合モ生スヘシ要スルニ將來ハ漆器ヲシテ塗抹製品ノ一種ト見倣シ廣ク必要ニ應シテ世界ノ材料ヲ採用スルコトヲ務ムヘシ

營業ノ組織ニ於テハ今日ノ如ク毎戸製造ヲナスハ不得策ナリトス規模ヲ大ニシ團體組織トシ専門技術者ヲ採用シ以テ本業ノ發達ヲ圖ルコト緊要ナリト信ス

參考館出品

參考館出品塗物類ハ本邦漆器ニ比スレハ見ルニ足ラサルモノ多シト雖モ左ノ數種ハ本邦當業者ノ參考トナルヘキ價値アリト認ム

一清國江南商務總局出品揚州產平螺朝朱盒ハ内面朱色ニシテ髹漆不良ナリト雖モ貝類ノ應用巧ミニシテ外觀佳ナリ

一清國南洋務局出品湖南省邵陽縣產小方式盒及茶瓶ハ内面粗ナリト雖モ光澤ニ富ミ外觀佳ナリ

一清國江南商務總局出品福建省產描金花筆筒ハ内面粗ナリト雖モ外觀佳ニシテ意匠亦良好ナリ又同局出品描金掛架ハ製作佳ニシテ歐人ノ嗜好ニ適スヘシ

右ノ外敷等ノ出品アリ清國製トシテハ佳ナラサルニアラス是等モ參考ノ資トナスヘキナリ加拿陀館出品

本館ニハ加拿陀國有限責任「イーエッチー」會社出品「バルブ」製ノ器物アリ出品ニ左ノ如キ付札アリ

Eddy's in Durated Fibre Ware
Made From Wood pulp.
The E. Eddy Company Limited,
Hull, Canada

右ハ木材ヨリ製シタル「バルブ」型ニ壓迫シテ作りタルモノニシテ一種ノ塗料ヲ施シタルモノアリ我農商務省工業試験所出品ニ類似スル所アレトモ稍劣レルノ感アリ然レトモ塗物業ノ爲メ頗ル參考トナルヘキナリ

官廳出品

農商務省工業試験所出品高温硬化辨當箱及鍋類其ノ他ノ出品ハ頗ル有益ナルヲ以テ茲ニ出品ノ各種ニ就テ報告セントス

一高温硬化辨當箱及鍋ハ漆液九十五度内外ノ蒸氣乾燥器ニ於テ六七時間ヲ經過スレハ能ク乾燥スルノ性質ヲ有スルコトヲ發見シ之ヲ器物ニ應用シタルモノニシテ能ク煮沸ニ堪ヘ漆液固有ノ臭氣ヲ留メス頗ル便利ノモノナリ

一漆液黒目釜ハ新規ノ工夫ニヨリ成レル器械ニシテ攪拌ヲ能クシ水分ノ蒸發ヲ速ナラシメ且ツ温度ヲ制限シ得ル便利有益ナルモノナリ

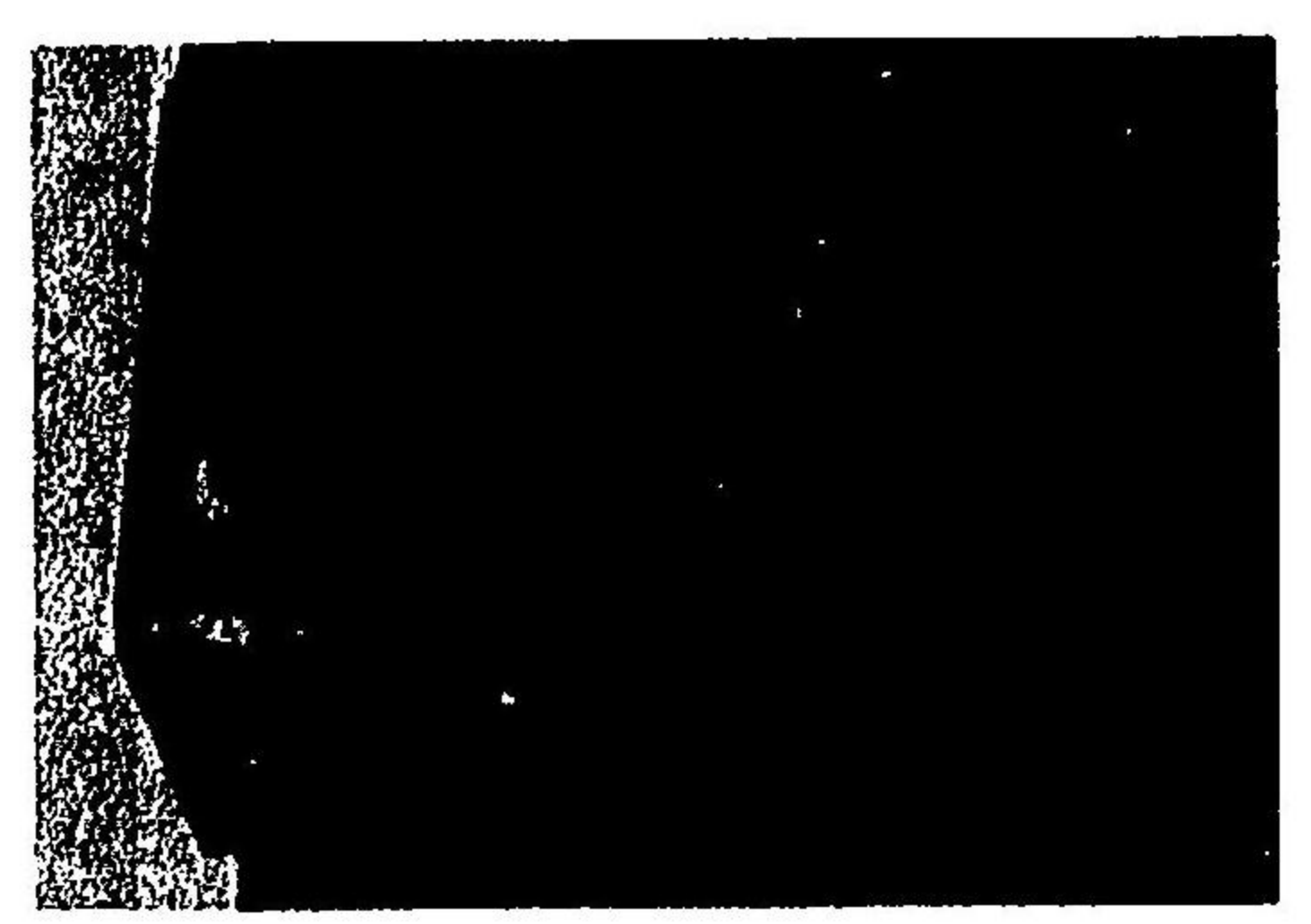
一不溶性膠地ハ重クロム酸加里ヲ用ヒ日光ノ作用ニ依リ膠ヲ不溶性ナラシメタルモノニシテ静岡市海野善次郎ハ已ニ重クロム酸加里ヲ用ヒ膠下地ヲ作り其ノ結果良好ナリト稱スレトモ右ハ單ニ藥品ヲ用ヒタルニ止マリ本出品ノ如ク完全ニ近キモノニアラス

一色塗標本ハ色塗ニ就テ諸種ノ試験ヲ施シ其ノ成績ヲ示シタルモノニシテ適當ナル顔料ヲ世ニ紹介シタルモノトス從來色塗ヲ製スルニ困難ヲ感シ殊ニ黄色ニ在テハ有毒物ヲ使用セサルヲ得サルノ有様ニテ當業者モ種々ノ工夫ヲ凝シタルトモ好結果ヲ得サリシニ今回ノ試験ノ成績ニ依リ始メテ適當ナルモノヲ發見シ得タリ

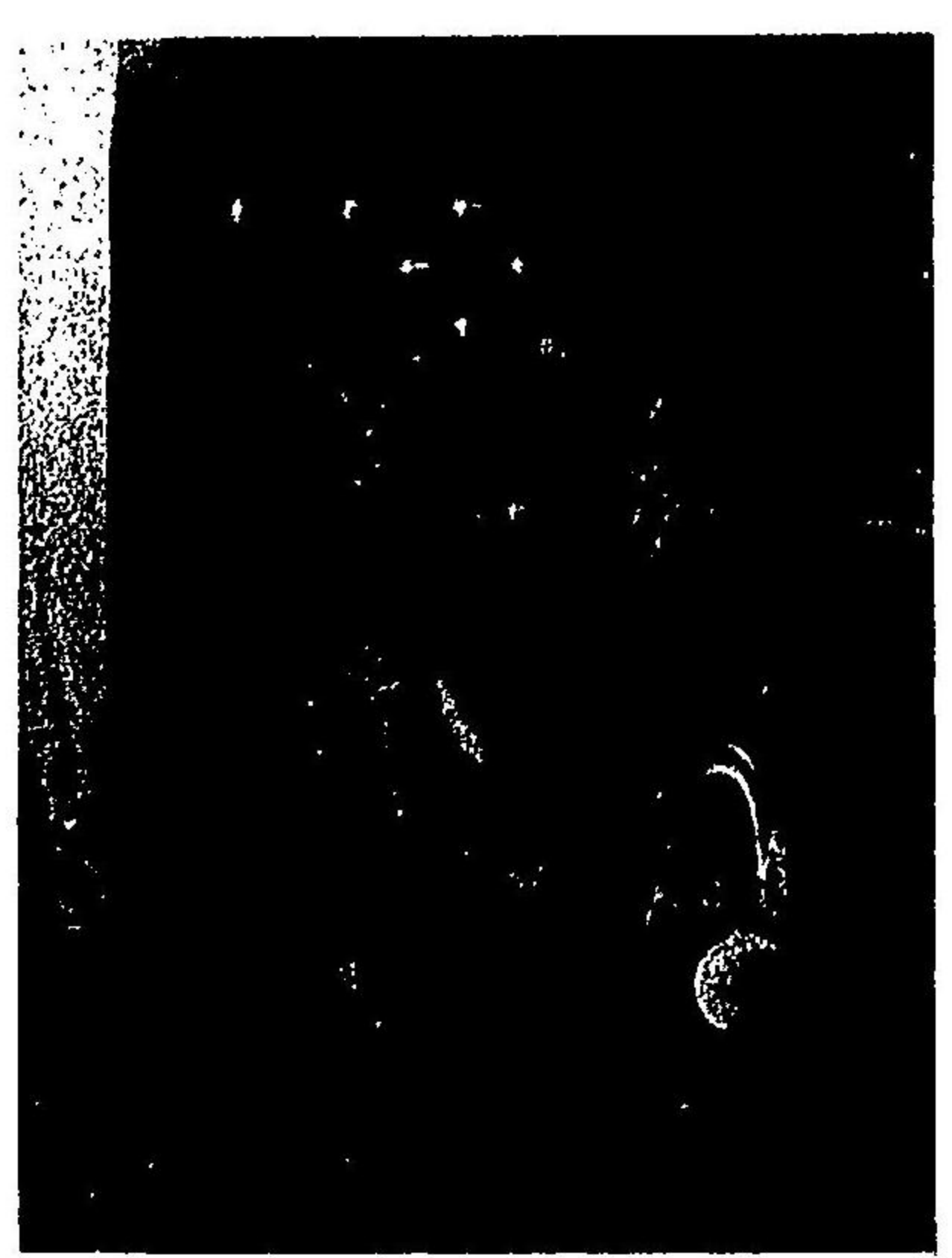
一紙漆漆器ハ紙「バルブ」ヲ木型ヲ用ヒ壓搾シテ形狀ヲ與ヘ之ニ乾燥油ヲ吸收セシメ耐水性トナシタルモノニシテ形狀ニ狂ヒヲ生セス且ツ堅牢耐久ナルノ長所アリ下地ヲ施スニ容易ニシテ塗上ケノ後一ヶ所ノ剝脱アルモ水ノ浸入スルコトナク從テ破壊ノ憂ナシ又漆液ヲ無益ニ吸收スルコトナク經濟上不利ナラス今日木材欠乏ノ時ニ當リ此方法ノ世ニ公ニセラレタルハ大ニ賀スヘキナリ

右ノ如ク工業試験所ノ出品ハ甚タ有益ニシテ製造法等ノ改良ニ於テ本邦漆器業ニ一進歩ヲ與ヘタルモノト謂フヘシ然レトモ紙漆ハ複雑ナル形狀ノモノヲ製スルニ困難ナルノ欠點アルヲ以テ將來尙ホ研究ノ必要アルヘシ又下地研キハ現在手工ニ依ルモノ多ケレトモ相當ノ

機械ヲ工夫シ勞力ヲ省クノ點ニ於テモ研究ヲ施スノ必要アルヲ認ム



東京府 林九兵衛出品

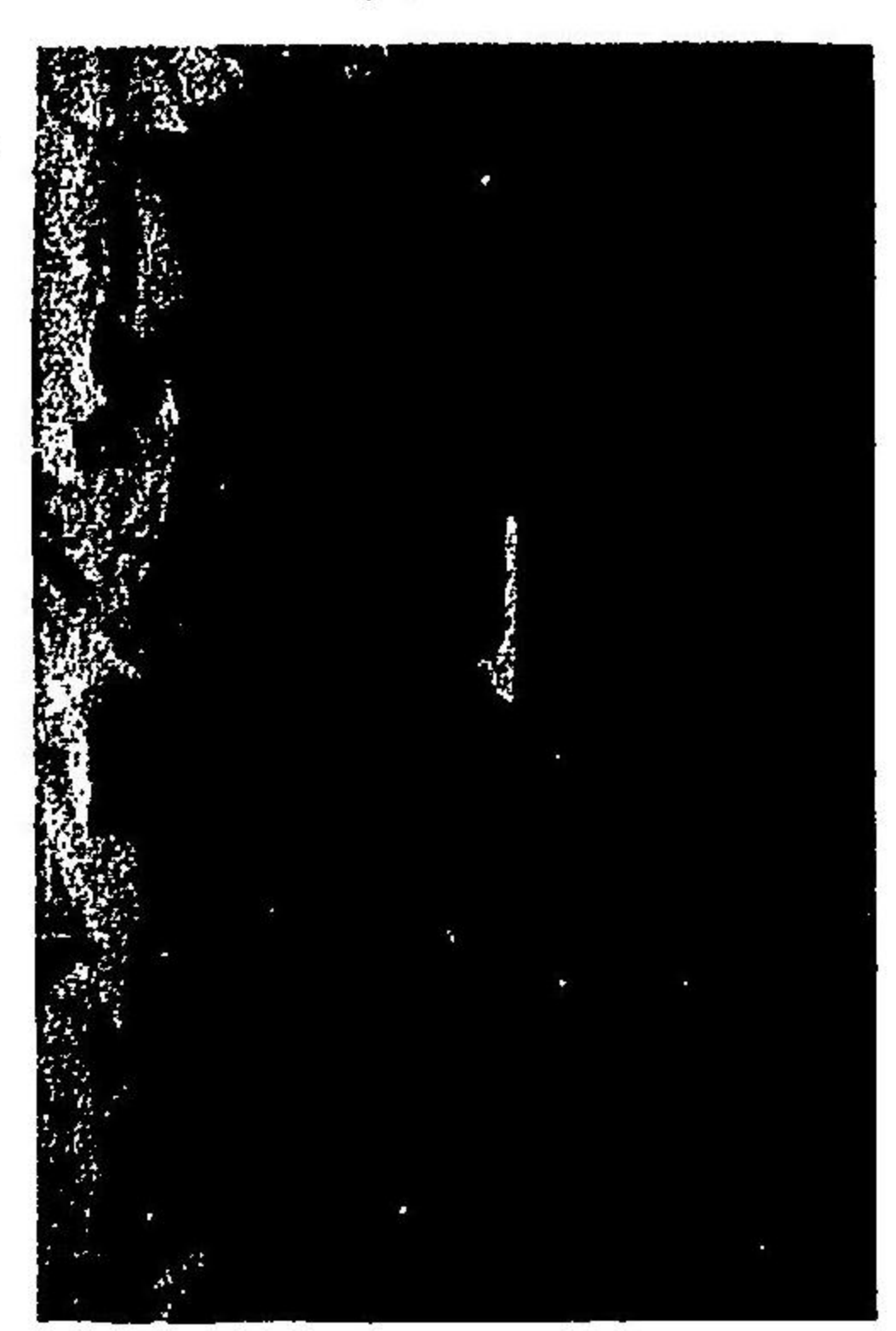


漆 板

静岡縣 漆器製造株式會社出品

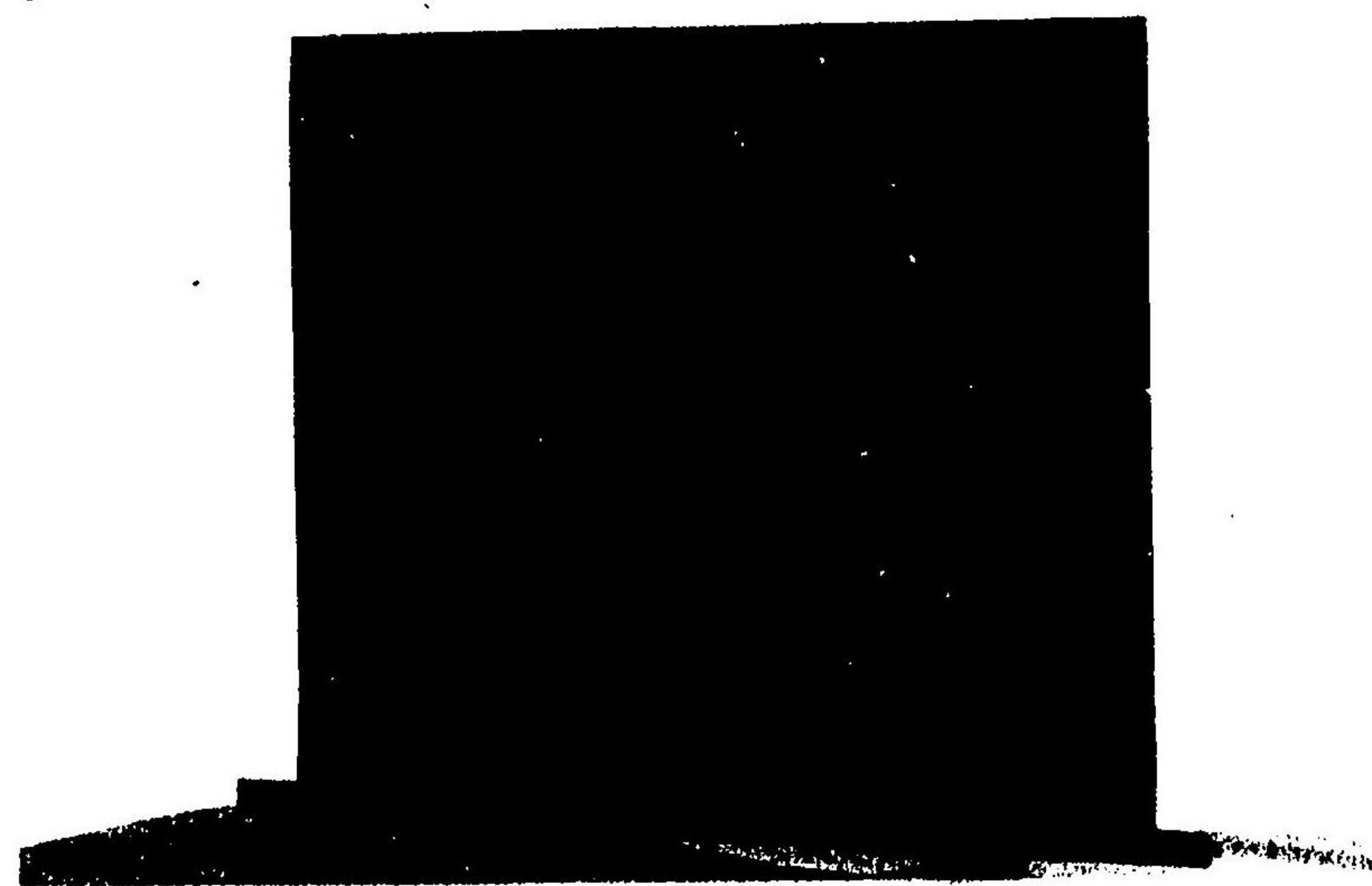


東京府 林九兵衛出品



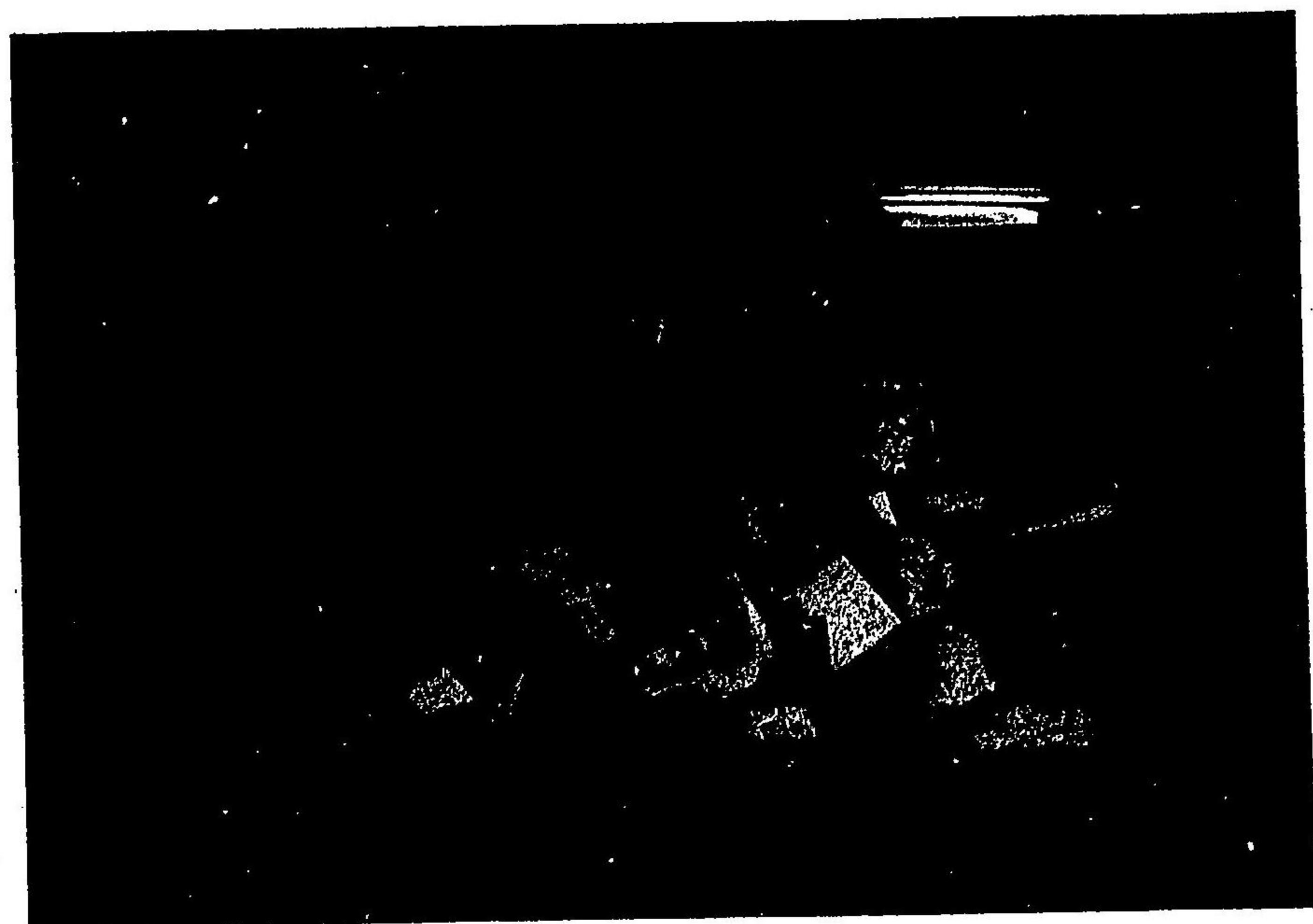
東京府 柏原孫左衛門出品

大阪府 田中合名會社出品



立衝繪時瀧黒

京都府 三上幸三郎出品



圖ノ「タルカ」形張洞盆服衣

京都府 三上治三郎出品



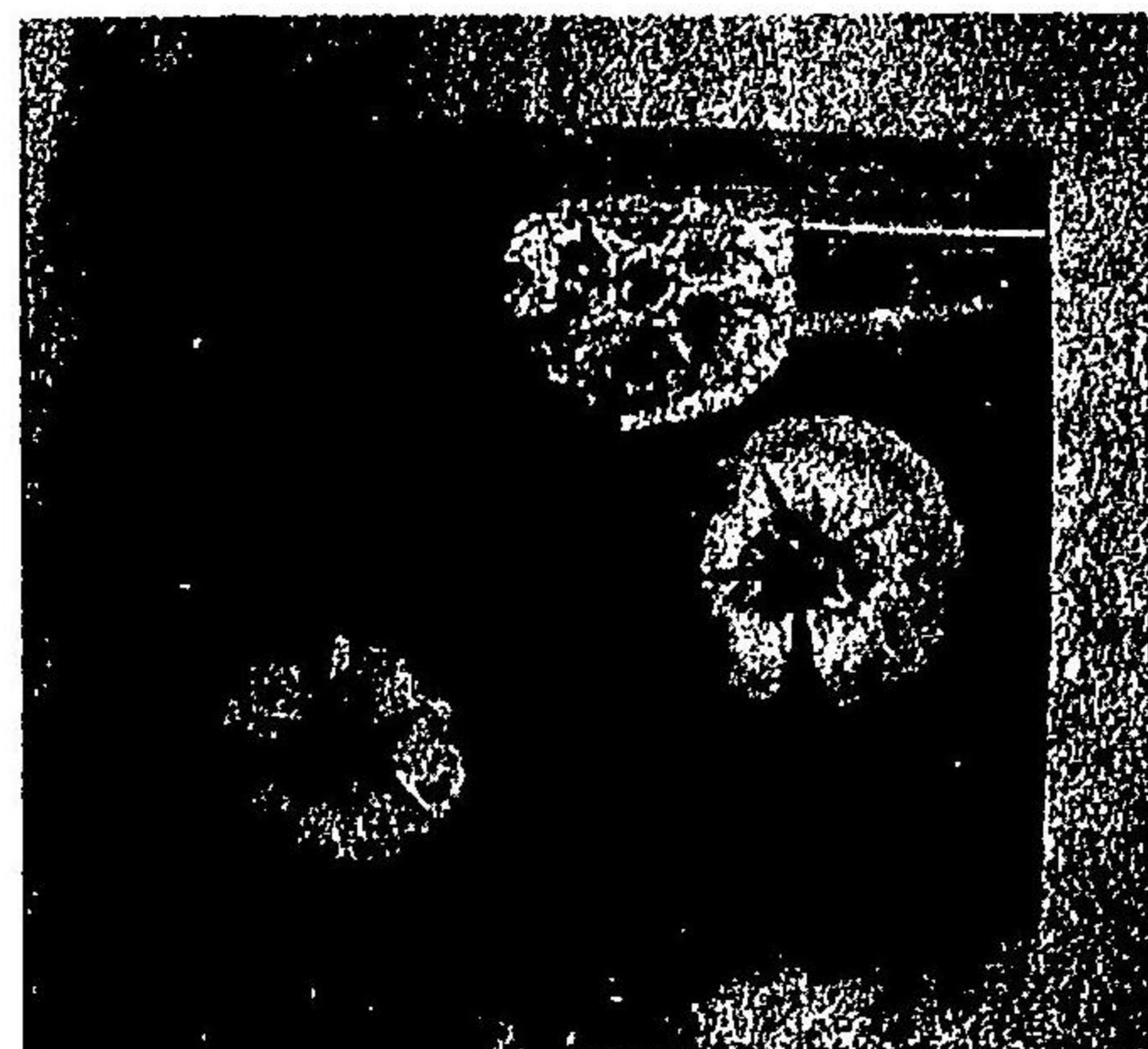
圖ノ冬夏箱手

石川縣 大垣高訓出品



圖ノ蛉蜻=栗盆側銀

石川縣 村上直松出品



庫文小

明治三十七年四月廿七日印刷
明治三十七年五月四日發行

定價全一部金貳拾五圓

本卷定價金五十五錢

第五回內國勸業博覽會事務局編纂

東京市日本橋區兜町二番地

發行者 長谷川 正直

東京市日本橋區兜町二番地

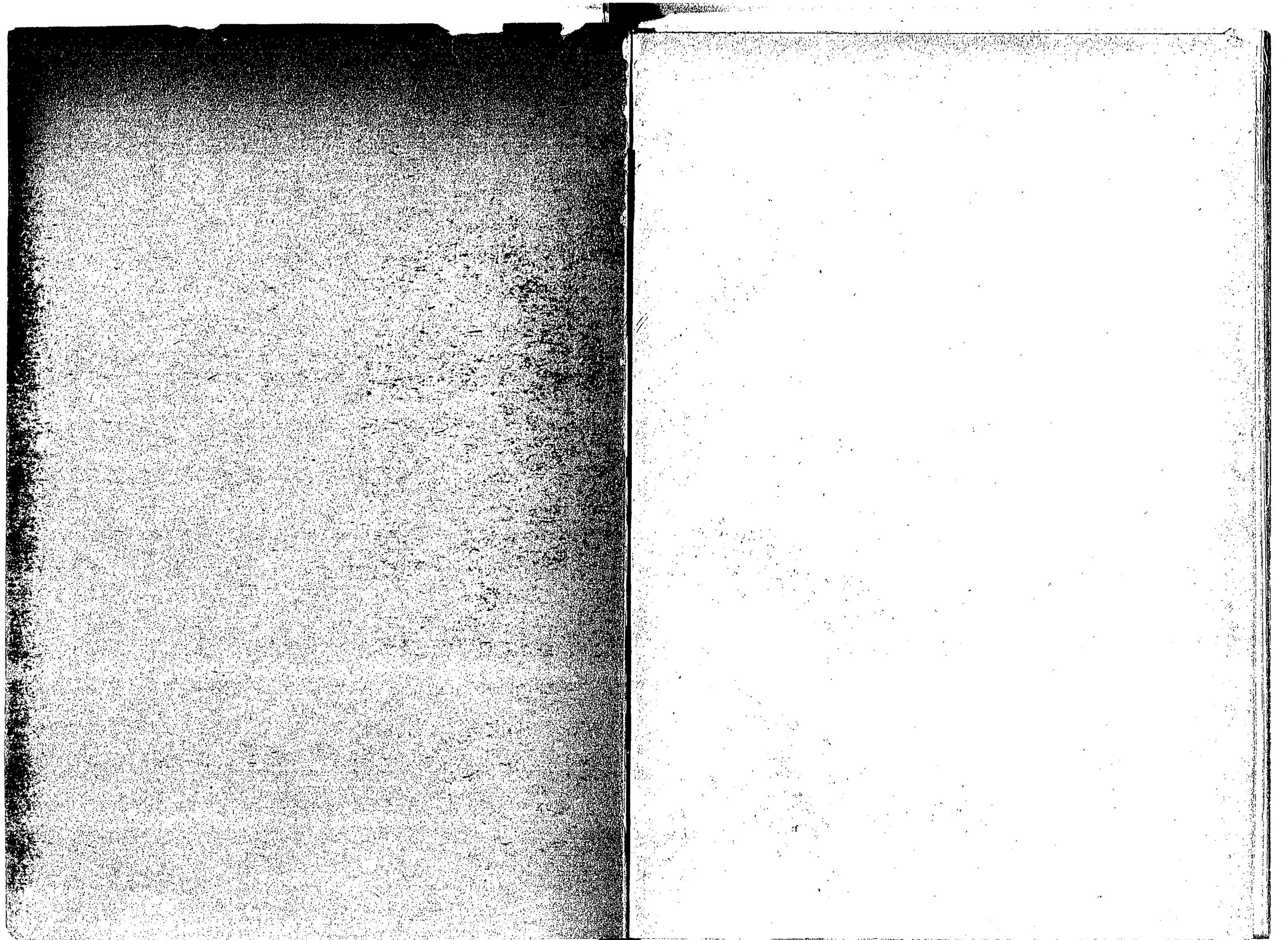
印刷者 齋 藤 章 達

東京市日本橋區兜町二番地

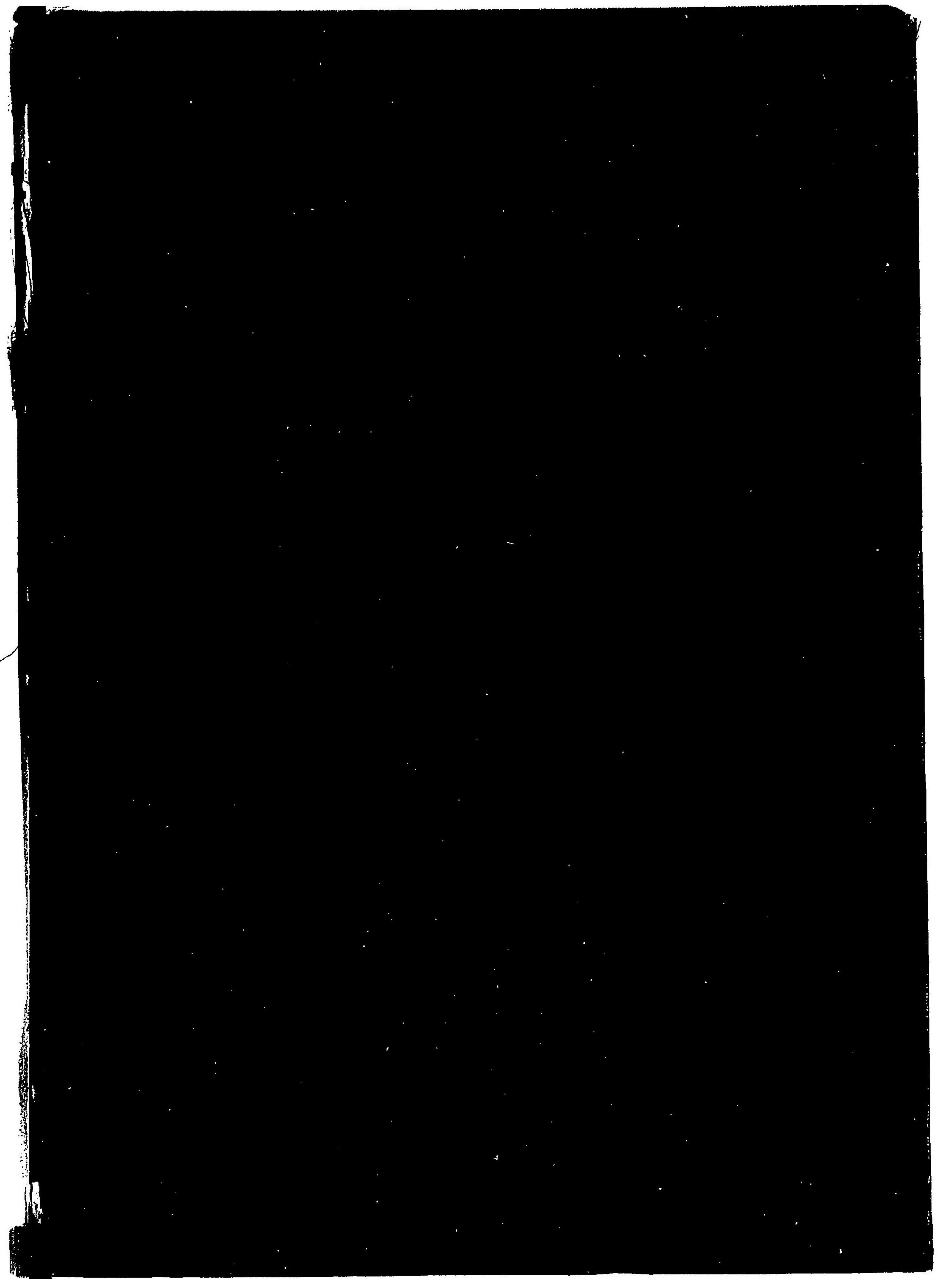
印刷所 東京印刷株式會社

317

21



111



317

21

